崇城大学IoT・AIセンター
事業概要

崇城大学IoT・AIセンター長
星合隆成

目次

１．イノベーションハブ構築に向けての取り組み

２．オープニングセレモニーの概要

３．IoT・AIシステムの開発状況

４．予算の執行状況

５．次年度計画

１．イノベーションハブ構築に向けての取り組み

イノベーションハブ基本構想

【崇城大学IoT・AIセンターの基本理念】
熊本のイノベーションハブ（イノベーション拠点）として地域創生に寄与すること

熊本のイノベーションの拠点に

課題解決型講義

未来情報コース

学生の学びの場
研究の場

崇城大学
IoT・AIセンター

包括連携協定

早稲田大学

熊本市役所

一般社団法人
SCBラボ

社会福祉事業団

ソフトバンク

包括連携協定

人材・教材・教育プログラムの交流

蔦屋書店熊本三年坂

（別紙１）

群馬県庁

イノベーションハブ基本構想

【崇城大学IoT・AIセンターの基本理念】

熊本のイノベーションハブ（イノベーション拠点）とし　　こと

早稲田大学との包括連携
囲碁を通じた福祉分野のイノベーション
人材を育成

早稲田大学

熊本市役所

熊本のイノベーションの拠点に

課題解決型講義

未来情報コース

学生の学びの場
研究の場

崇城大学
IoT・AIセンター

包括連携協定

人材・教材・教育プログラムの

熊本市北区役所崇城大学連携
地域改革プロジェクトチーム

ク

蔦屋書店熊本三年坂

（別紙１）

イノベーションハブ基本構想

【崇城大学IoT・AIセンターの基本理念】
熊本のイノベーションハブ（イノベーション拠点）として地域創生に寄与すること

熊本のイノベーションの拠点に

課題解決型講義

未来情報コース

学生の学びの場
研究の場

崇城大学
IoT・AIセンター

包括連携協定

早稲田大学

熊本市役所

一般社団法人
SCBラボ

社会福祉事業団

ソフトバンク

包括連携協定

人材・教材・教育プログラムの交流

蔦屋書店熊本三年坂

（別紙１）

群馬県庁

群馬県庁での基調講演「イノベーションハブ構想について」 2021.3.3

総務省×群馬県庁

総務省 Ministry of Internal Affairs and Communications

ご意見・ご提案　ENGLISH(TOP)　MIC ICT Policy (English / French / Spanish / Russian / 中文)

アクセシビリティ閲覧支援ツール　文字サイズの変更 小 標準 大　ENHANCED BY Google

総務省の紹介 | 広報・報道 | 政策 | 組織案内 | 所管法令 | 予算・決算 | 申請・手続

総務省トップ > 組織案内 > 地方支分部局 > 関東総合通信局 > お知らせ（2021年） > ジョブラボシンポジウムを開催 地域イノベーションでDXを加速する－新しい価値で全てを変える－

シンポジウム2021
新しい価値で全てを変える

基調講演 星合隆成氏 工学博士・P2P提唱者・SCBイノベーションアカデミー校長・崇城大学 情報学部 教授
「DX時代の地域イノベーション」

パネルディスカッション「DX時代の地域イノベーション」

パネリスト 有福英幸氏 株式会社フューチャーセッションズ代表取締役
馬場博史氏 ソフトバンク株式会社 法人事業統括 プロセスマネジメント本部 業務戦略統括部 人材育成支援部 担当部長
星合隆成氏 工学博士・P2P提唱者・SCBイノベーションアカデミー校長・崇城大学 情報学部 教授

お知らせ

令和3年2月16日

関東総合通信局

ジョブラボシンポジウムを開催
地域イノベーションでDXを加速する
－新しい価値で全てを変える－

総務省関東総合通信局（局長：椿 泰文（つばき やすふみ））は、一般社団法人ジョブラボぐんま及び関東ICT推進NPO連絡協議会との共催により、ジョブラボシンポジウムをオンラインにて次のとおり開催し、参加者を募集します。

1　概要

このシンポジウムでは、「DX時代の地域イノベーション」をテーマに、基調講演とパネルディスカッションを実施します。様々な分野で活躍できる人材育成の取組を例に、DX時代に必要な視点や価値観について考えます。

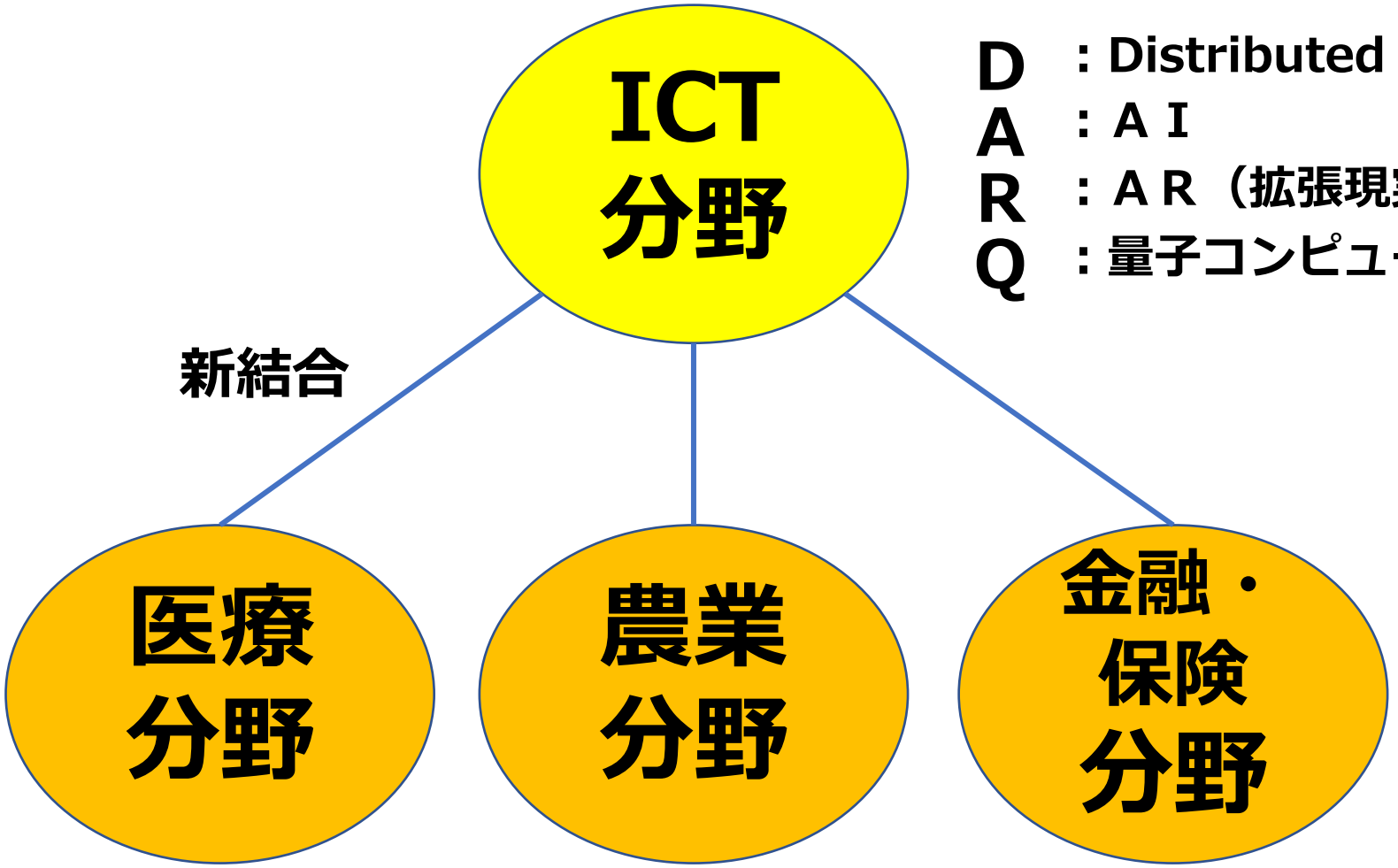
いま注目のDXとは？

- デジタル　トランスフォーメーション
- ICTの活用を通じてビジネスモデルや組織を変革すること

DXで新薬の開発　DXで農業　DXで自動車開発　DXで食品開発

- ビジネススタイル、ライフスタイルの変革
  DXで新たな価値観（イノベーション）の創出

ICT分野との異分野融合イノベーション



D：Distributed Control（Ｐ２Ｐ）
A：ＡＩ
R：ＡＲ（拡張現実）
Q：量子コンピュータ

プログラミングの学び
プログラミング的思考
論理的思考

（別紙１）

熊本の中心市街地である下通りの「蔦屋書店熊本三年坂」や「崇城大学IoT・AIセンター」をハブ（拠点）にイノベーションを創発するための取り組みを実施。ハブと県内外の資源（ピア）を新たにつなげることで、そのつながり（新結合）から、新たな発想・新たなアイデアによる新たな価値観を創出する。SCB理論・SCBメソッドを用いて、この新結合によるイノベーションを科学的・学術的に創出する。

TSUTAYA X SCBラボ X 崇城大学

TSUTAYA　SCB　present

「蔦屋書店熊本三年坂」をハブとした「イノベーション創発」の取組み

1．イノベーションのトークイベントを開催
2．トークイベントのテレビ・ラジオ番組収録，パネル展示
3．イノベーション書籍コーナーの開設
4．SCBイノベーションアカデミーの開催(人材育成)　Dr.HOSHIAI

1．トークイベントの開催

星合隆成(工学博士)　vs.　ゲスト

P2P・SCB提唱者
アカデミー校長
崇城大学教授

イノベーティブな活動を
行っている団体の代表

※ SCB理論・SCBメソッドを用いて、ゲストの先進的・先導的・進歩的・革新的・社会的意義・チャレンジングな活動を分析・紹介

※ 第１回のゲスト

北川正恭氏
元三重県知事
早稲田大学名誉教授
マニフェスト提唱者

※ ゲストは半年先まで確定（イノベーティブな企業、団体、大学、高校などの代表者）

2．テレビ・ラジオ番組の公開収録

番組紹介
パネル展示

トークイベントをテレビ・ラジオ番組として公開収録

①J:COMレギュラー番組で放送
　番組名「SCBイノベーションアカデミー」
　放送枠「15分番組を月～金の1カ月間放送」
②収録番組をコミュニティFMで放送
③収録番組をYouTube配信
④収録番組を蔦屋書店熊本三年坂でパネル展示

3．イノベーション書籍コーナー

TSUTAYA＆熊本西高校で同時展開

SCBイノベーションアカデミー講師による
書籍コーナーの開設と運営
【テーマ：イノベーション】
・イノベーションの基礎
・起業・新規ビジネス
・最先端ICT技術（IoT・AI・P2P）
・各分野のイノベーション
　（医療・農業・観光・SDGs など）
・イノベーションを起こす組織

書籍紹介
パネル展示

4．SCBイノベーションアカデミーの開催

SCB理論・SCBメソッド・思考法

熊本校
福岡校
道の駅阿蘇校・坂本校
群馬県太田校(関学大)
群馬県前橋校（県庁）

SCBイノベーションアカデミーとは？

①SCBラボが設立したイノベーション創発のための学びの場
②イノベーションを創発できる人材を育成
③イノベーション創発のための教育メソッド(SCBメソッド)を提供
④企業や地域のイノベーション活動を推進、サポート/地域連携・産官学連携
⑤イノベーション創発のための理論である「SCB理論」の普及

SCBイノベーションアカデミーのプログラム

①初級コース/上級コース（4月～7月）（10月～1月）の2期
　（週1回：土曜日午後または平日夜に開講）
②講師は崇城大学、東京都市大学、早稲田大学、ソフトバンク、
　フューチャーセッションズ、FM桐生など
③2020年度前期は260の法人・個人が受講
④TSUTAYAから3名が参加

イノベーションハブ構築に向けて：４つのミッション

- 人材育成（学びの場の提供、教材の開発）
- プロモーション
- アクティビティ推進
- 産官学連携

人材育成：学びの場の提供（リモート講義）

オムロン、ヤマトグループ、 NECグループ、ソフトバンク、マイナビ、農林水産省、 浜松市役所、熊本県、熊本市、早稲田大学マニフェスト研究所、福岡大学、関東学園大学、ハーバード大学、ベルギーのデザイン事務所、道の駅阿蘇、熊本市社会福祉事業団など国内外260の法人・個人が参加

人材育成：学びの場の提供（熊本県立熊本西高）

- イノベーション創発の授業
  1学期～3学期の3回
- プログラミングの授業（使用教科書）
  星合, 植村著「Python演習」, 森北出版
- 崇城大学IoT・AIセンターでの体験実習
- 熊本西高の図書室に「イノベーション」
  コーナーを設置
- J:COM番組の制作「熊本西高校」

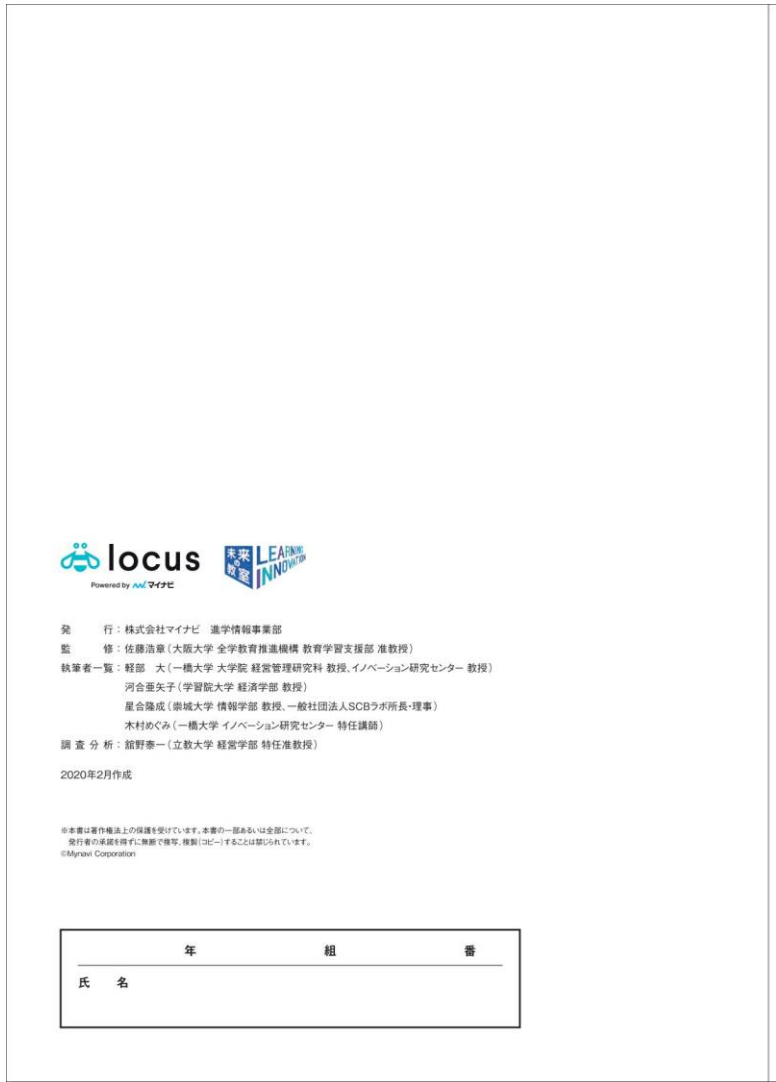
人材育成：学びの場の提供（ルーテル学院高）

人材育成：学びの場の提供（阿蘇中央高）

人材育成：学びの場の提供（昭和学院高）

人材育成：学びの場の提供
（マイナビインターンシップ高校生3000人）

佐藤浩章（大阪大学）
軽部　大（一橋大学）
河合亜矢子（学習院大学）
星合隆成（崇城大学）
木村めぐみ（一橋大学）
館野泰一（立教大学）



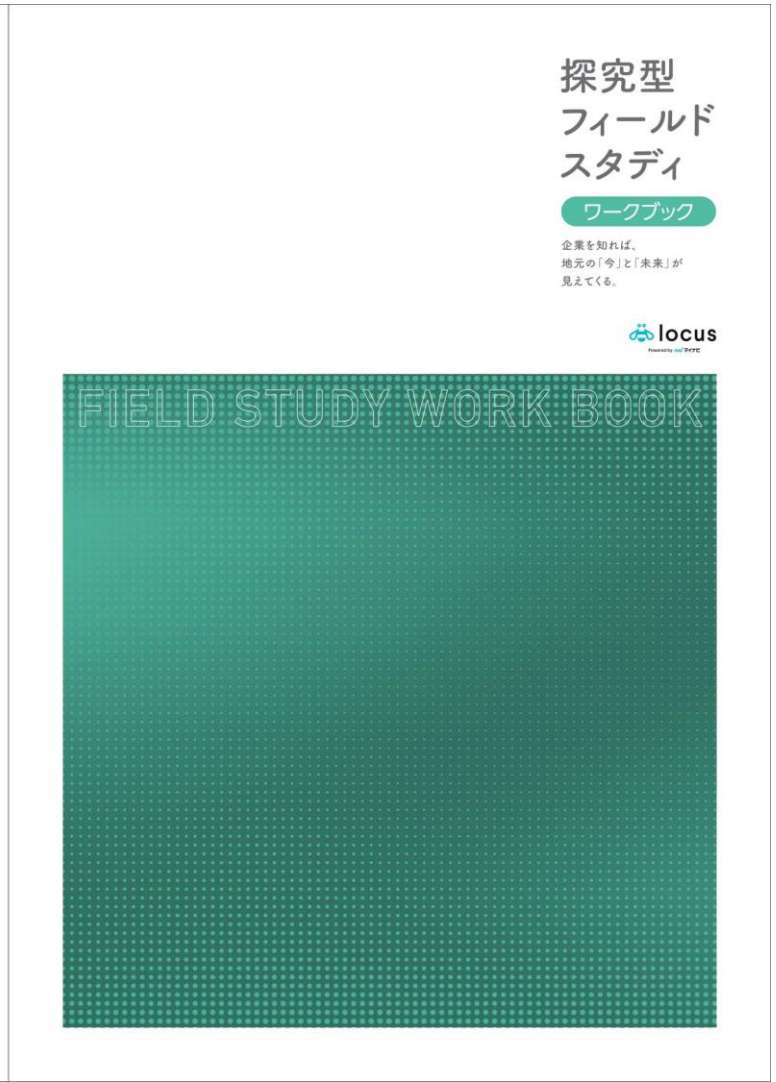
locus
Powered by マイナビ

発　　行：株式会社マイナビ　進学情報事業部
監　　修：佐藤浩章（大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）
執筆者一覧：軽部　大（一橋大学 大学院 経営管理研究科 教授、イノベーション研究センター 教授）
河合亜矢子（学習院大学 経済学部 教授）
星合隆成（崇城大学 情報学部 教授、一般社団法人SCBラボ所長・理事）
木村めぐみ（一橋大学 イノベーション研究センター 特任講師）
調 査 分 析：舘野泰一（立教大学 経営学部 特任准教授）

2020年2月作成

※本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、
発行者の承諾を得ずに無断で複写、複製（コピー）することは禁じられています。
©Mynavi Corporation

年　　組　　番
氏　名



探究型
フィールド
スタディ
ワークブック
企業を知れば、
地元の「今」と「未来」が
見えてくる。

locus
Powered by マイナビ

FIELD STUDY WORK BOOK

人材育成：学びの場の提供（熊本・福井の中学生）

人材育成：教材の開発（産経新聞コラム連載８回）

1)星合隆成, イノベーション創発　新たな価値観が地域を救う（１）地域イノベーション, 産経新聞, https://www.sankei.com/region/news/200417/rgn2004170018-n1.html, 2020.4.17.
2)星合隆成, イノベーション創発　新たな価値観が地域を救う（２）技術革新, 産経新聞, https://www.sankei.com/region/news/200424/rgn2004240007-n1.html, 2020.4.24.
3)星合隆成, イノベーション創発　新たな価値観が地域を救う（３）P2Pの誕生（上）, 産経新聞, https://www.sankei.com/region/news/200501/rgn2005010019-n1.html, 2020.5.1.
4)星合隆成, イノベーション創発　新たな価値観が地域を救う（４）P2Pの誕生（下）, 産経新聞, https://www.sankei.com/region/news/200514/rgn2005140013-n1.html, 2020.5.14.
5)星合隆成, イノベーション創発　新たな価値観が地域を救う（５）P2Pサービス, 産経新聞, https://www.sankei.com/region/news/200522/rgn2005220006-n1.html, 2020.5.22.
6)星合隆成, イノベーション創発　新たな価値観が地域を救う（６）SCB理論（上）, 産経新聞, https://www.sankei.com/region/news/200529/rgn2005290029-n1.html, 2020.5.29.
7)星合隆成, イノベーション創発　新たな価値観が地球を救う（７）SCB理論（下）, 産経新聞, https://www.sankei.com/region/news/200605/rgn2006050021-n1.html, 2020.6.5.
8)星合隆成, イノベーション創発　新たな価値観が地域を救う（８）SCBラボの取り組み, 産経新聞, https://www.sankei.com/region/news/200612/rgn2006120026-n1.html, 2020.6.12.
9)星合隆成, 人や組織, モノつなげ価値創出, 西日本新聞社説・オピニオン, https://www.nishinippon.co.jp/item/n/607047/, 2020.5.10.

人材育成：教材の開発（西日本新聞社説オピニオン）

人や組織、モノつなげ価値創出

地域革新とP2P

崇城大情報学部教授
星合 隆成氏

ほしあい・たかしげ　工学博士。崇城大IoT・AIセンター長も務める。元NTT研究所主幹研究員・参与。世界初のP2PであるSIONet・ブローカレス理論の提唱者。

少子高齢化、東京への一極集中、新型コロナウイルスの感染拡大などが、地域経済や地域活性化に深刻な影響を及ぼしている。これらの解決に向けた、地域創生の有効手段は、「地域にイノベーションを創発する」ことである。

イノベーション創発は、「新たな発想で新たな価値観を生み出す」ことを意味し、「技術革新」と「新結合」に大別される。

技術革新は、技術の進展（革新的な技術）によって新たな価値観を生み出すことである。技術革新の成功事例として、産業革命がある。

第1次産業革命では、蒸気機関の発明で蒸気機関車などを生み出した。第2次産業革命の電気、第3次産業革命でのコンピューターによる新たな価値観は、世の中に大きな変革を促した。現在、第4次産業革命（インダストリー4・0）においてはAI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）、P2P（ピア・ツー・ピア）などが主要技術として位置づけられる。

P2Pはコンピューター同士、ユーザー同士を直接つなげるネットワーク技術である。コンピューターは一般的にサーバー（仲介者）を介してつながるが、仲介者なし（ブローカレス）のP2Pの技術が様々な分野で革新的なサービスを生み出した。インターネット電話のスカイプ、仮想通貨のブロックチェーン、SNS、P2P保険などである。

一方、新結合は「新たなつながりによって新たな価値観を生み出す」ことを意味する。我々は、この新結合が地域のイノベーション創発に有効と考えている。地域に点在する様々な資源同士の新たなつながりによって、新たな価値観を創出するのである。新結合によって地域にイノベーションを創発することを「地域イノベーション」と呼んでいる。そして、この地域資源を科学的につなげる手法としてP2Pに着目した。

P2Pの考え方を応用し、コンピューター同士が直接つながるように、人や組織、モノなどが結びつき地域イノベーションを創発する取り組みを「地域コミュニティブランド（SCB）」と定義した。熊本県、熊本市、ソフトバンク、マイナビなどが加盟する一般社団法人「SCBラボ」を中心に、全国50のプロジェクトを推進している。地域発展を目指し、様々な地域活性化の活動に取り組んでゆく。

西日本新聞　2020.5.10

「オピニオン」

人材育成：教材の開発（J:COMレギュラー番組）

人材育成：教材の開発（FM桐生レギュラー番組）

Time Schedule FM桐生番組表 2017.04〜2017.09

=4月から新番組

FAX : 0277-32-5952
twitter ID : fmkiryu

	月 Monday	火 Tuesday	水 Wednesday	木 Thursday	金 Friday
7	7:00 Morning Music				
	おはよう桐生 mail ▷ asa@fmkiryu.jp				
	7:35 天気予報 7:52 火・木/ぐんまいきいき情報【群馬県】 8:00 桐生市からのお知らせ【桐生市】 8:05 医師会からのお知らせ【桐生市医師会】		8:08 上手新聞ニュース【山田製作所(火〜金)】 8:14 天気予報 8:30 火・木/企業インフォメーション【FM桐生サポートスポンサー】 ◇月・水・金:橋本千恵子 ◇火・木:長山知愛子		
9	元気はつらつ歌謡曲(有線ブロードネットワーク)				
	◇月:演歌男子。+純烈 ◇火:山川豊・椎名佐知子 ◇水:山内惠介 ◇木:松原のぶえ・かとうれい子 ◇金:山本譲二				
10	mms	リブラフ〜Live Love Laugh〜	吹奏楽の調べ	勝手にオールスターズ[FM OZE]	ぽちゃっとくらぶ[FM OZE]
	◇鈴木利和・松井直樹・毛利隆宏【ルチグループ・美容室】E・株式会社ライフウィズ	◇宮坂あつこ・田島圭 他【まこと自動車】	◇新井梢 band@fmkiryu.jp	◇やのっち・せきひろみ	
30	Music Time		Good Day Tomorrow[FM TARO]	BE	
	※第3週「みどり市からの風」(再) ※最終日曜の翌日「市長さん」(再)	MITSUBA ふれあいパレスタジオ ll@fmkiryu.jp	◇LALONE・Ella		
11	山田恵範のミュージックライド	火・木 English Time ◇GOEIGO 水・金 グランドピジ			
	◇山田恵範・増永雅子	前日 19:06〜19:59の再放送			
12	ランチどきっ! mail ▷ lun@fmkiryu.jp				
13	12:00 上手新聞ニュース 【月:桐生自動車教習所◇水:岸病院◇木:山田製作所】 水:ランチコラム【M's パートナー税理士法人】 13:00 天気予報 【月:永田医院◇水:たかのす診療所】 13:04 ニュース 【月:寺田内科小児科医院】		主なコーナー 火:のださんぽなのだ ガスでハッピーライフ【桐生ガス ◇朝倉麗花(桐生ガス) 水:What Yuh say〜なにを優?◇ ランチどきっ!ミニ・ゼミナール ◇月:橋本千恵子◇火:野田真由美◇水		
	13:53 桐生市からのお知らせ【桐生市】				
14	14:00 上手新聞ニュース【金:観音院】 14:06 天気予報【山田製作所】				
	14:10 月｜にじいろほんだな◇はっちー 火｜創作らいふ◇Merry bad ending 水｜柳家小蝠のらく ◇柳家小蝠【藤江医院】 木｜肥後モン大辞典◇崇城大学SCB放送局 金｜J-Winds(再)◇【樹徳中学・高等学校】				
	14:27 桐生市医師会からのお知らせ【桐生市医師会】				
30	たまごの声[ボイスアクションスタジオ]	第1,3,5週 Mojo Time	SPACE SHOWER RADIO[FM JAGA]	ランチどきっ!ミニ・ゼミナールアーカイブス	スターダストレビューの星になるまで[群馬FM]
	◇松田 瑠佳	◇Tokyo Mississippi【ル・パンプー】 MITSUBA ふれあいパレスタジオ mojo@fmkiryu.jp	◇栗谷昌宏	◇小林隆子	◇柿沼清史・寺田正美・林"VOH"紀源

	土 Saturday	日 Sunday
7	時の旅人[FM TARO]	Think Out !! (再)
	yoshimiのスキスキっ![ラヂオなるみ]	◇小保方貴之
8	群馬グリフィンのゲットリザルト!	Job Lab Radio (再)
	◇群馬グリフィンキャプテン相澤智也・ゆさき[FM]	◇ジョブラボくんま
9	ワンクッションのワンラボ! (再)	SUNDAY MUSIC
	9:30 MUSIC PARTY (再)	・第2週「みどり市からの風」
	◇HISA・カミクボ・タカハ・CHLU・ayaeko・オコノギ	・最終週「市長さんいらっしゃい」
10	AB Friday (再)	9:30 Sound Garden(再)
	◇smonky・hot-cake	10:00 あにわん[FM TARO]
11	第1,3,5週 チカチカ☆ポトラッチョ(再)	◇鱠淵信也・高野友芽奈
		たま姉さん・あにわんくん
	【(有)竹内自動車・ピノキオ珈琲店】	
14	13:00 お出掛け情報・交通情報 13:10 天気予報【清水開発】 14:00 シネマランキング&PICK UP 【イオンシネマ太田店】 HMVアルバムセールスチャート 15:00 天気予報 15:04 MONO CATCH UP	ヨーティのここだけの話♪(再) ◇夏川陽子 キョホラジ(再) ◇巨峰3兄弟
15		第1,3,5週 織人ラヂオ(再) ◇織人編集部

肥後モン大辞典

放送時間：毎週木曜日 14:10〜14:25

出演：崇城大学SCB放送局（明石鉱征、大茂佳南子、蔵元大晴、杉田尚弥、中村美貴、原村晶、吉田雄大）熊本に居るユニークな人“肥後モン”を徹底追及！「聞いたことあるけど詳しく知らない」を掘り下げて、さまざまな活動の裏側に迫る情報番組です。多彩なゲストと共に新しい知識をあなたの辞典にお届けします。

崇城大学 SCB 放送局
(SCBメディア塾)

人材育成：教材の開発（論文）

日本情報経営学会誌　2016　Vol. 36, No. 3　23

■研究論文

地域コミュニティブランド
—ブローカレス理論を用いた人的 NW の形成—

Social Community Brand: Human Networks Using the Brokerless Theory

崇城大学　星合　隆成*
Sojo University　Takashige HOSHIAI
佛教大学　吉見　憲二**
Bukkyo Univ.　Kenji YOSHIMI
早稲田大学　金光　永煥***
Waseda Univ.　Hideriro KANEMITSU
早稲田大学　中里　秀則****
Waseda Univ.　Hidenori NAKAZATO

Abstract : *We proposed a method for realizing regional activation and the emergence of community business. It is called "Social Community Brand: SCB", which is based on the brokerless theory invented in 1998. The brokerless theory is the world's first P2P technology. The essence of P2P is direct and seamless communication (information exchange) between individual users or user groups, without the intervention of intermediaries or brokers, so it is also known as a "brokerless model". In this paper, we introduce the background of our researches, ideas on Social Community Brand and about 50 projects using the SCB.*

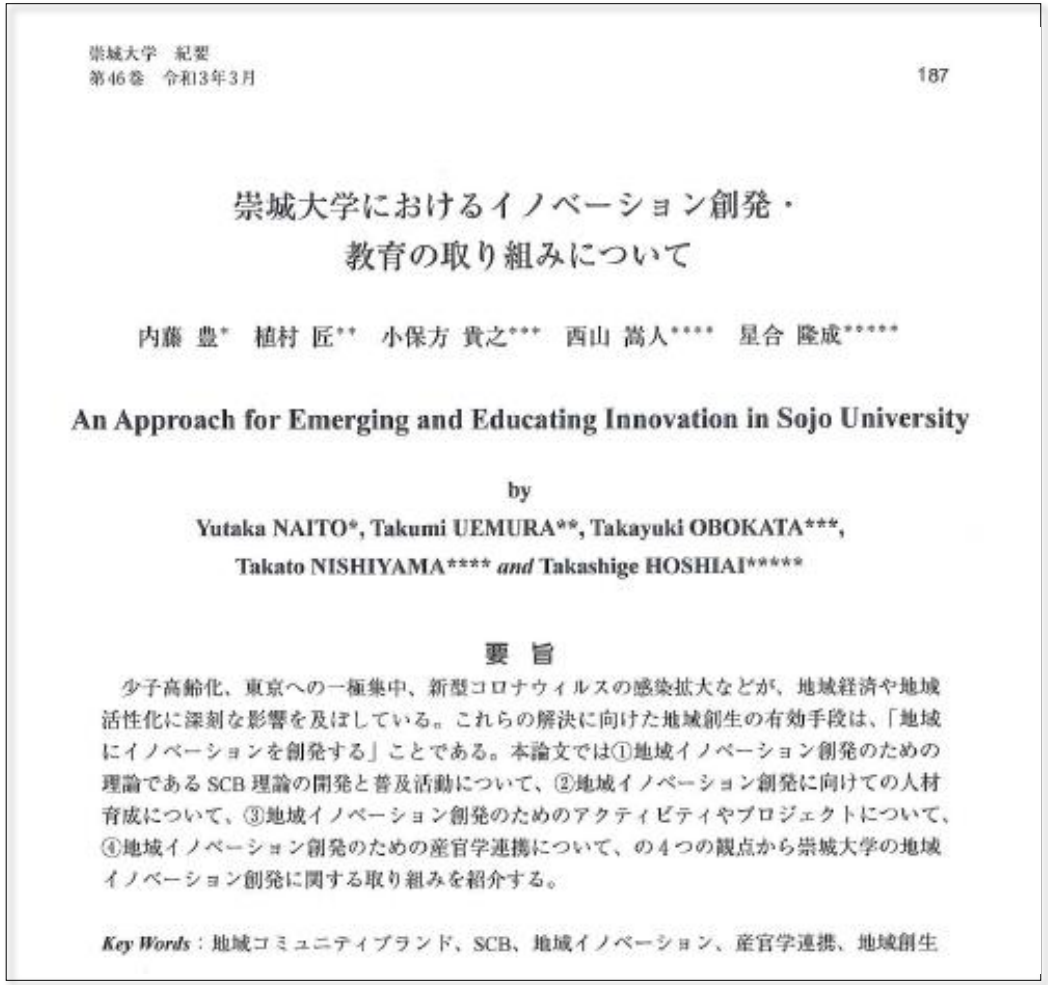
Keywords : *P2P, Social Community Brand, brokerless model, community business, regional activation*

1. はじめに

2011 年に考案された「地域コミュニティブランド（SCB：Social Community Brand）」は地域活性化，コミュニティビジネス創発のための新たな手法であり，全国で約 50 のプロジェクトがこれまでに推進されている（Yahoo ニュース，2015；朝日新聞，2013；熊本日日新聞，2012；読売新聞，2013a；くまもと経済，2014a）．

＊崇城大学　情報学部　教授
＊＊佛教大学　社会学部　講師
＊＊＊早稲田大学　グローバルエデュケーションセンター　助教
＊＊＊＊早稲田大学　基幹理工学部　教授

日本情報経営学会論文



崇城大学　紀要
第46巻　令和3年3月　187

崇城大学におけるイノベーション創発・教育の取り組みについて

内藤 豊*　植村 匠**　小保方 貴之***　西山 嵩人****　星合 隆成*****

An Approach for Emerging and Educating Innovation in Sojo University

by
Yutaka NAITO*, Takumi UEMURA**, Takayuki OBOKATA***,
Takato NISHIYAMA**** *and* Takashige HOSHIAI*****

要　旨

少子高齢化、東京への一極集中、新型コロナウィルスの感染拡大などが、地域経済や地域活性化に深刻な影響を及ぼしている。これらの解決に向けた地域創生の有効手段は、「地域にイノベーションを創発する」ことである。本論文では①地域イノベーション創発のための理論である SCB 理論の開発と普及活動について、②地域イノベーション創発に向けての人材育成について、③地域イノベーション創発のためのアクティビティやプロジェクトについて、④地域イノベーション創発のための産官学連携について、の４つの観点から崇城大学の地域イノベーション創発に関する取り組みを紹介する。

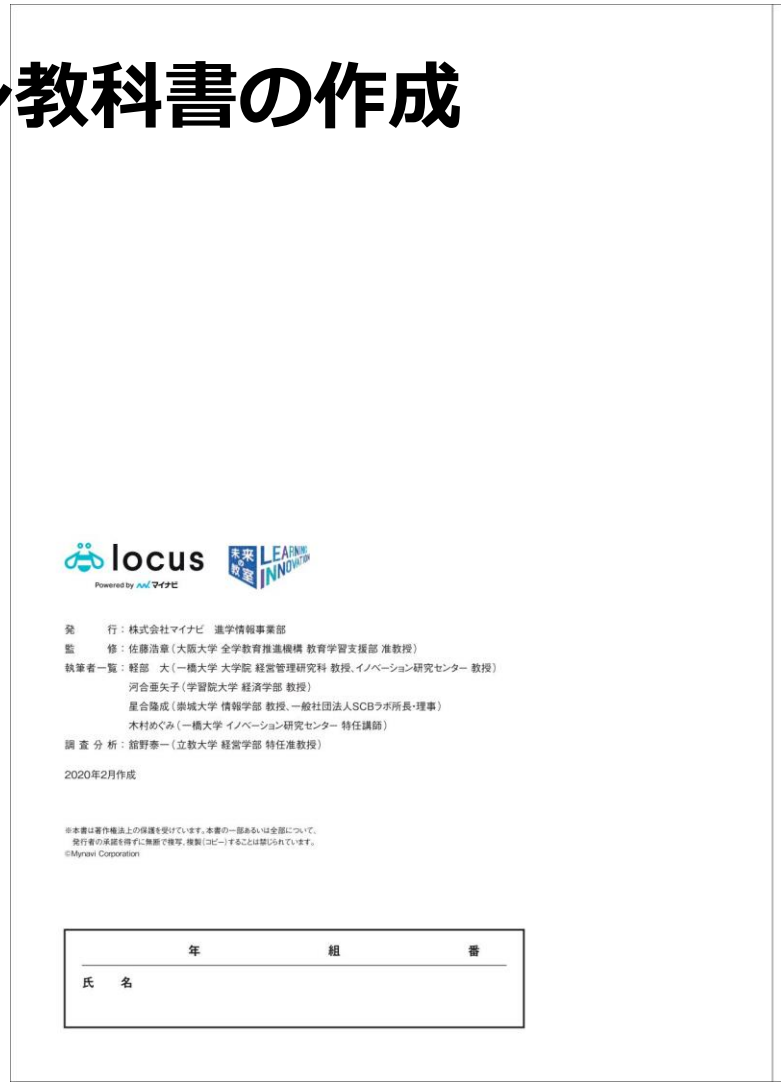
Key Words：地域コミュニティブランド、SCB、地域イノベーション、産官学連携、地域創生

崇城大学紀要(2021.3)

人材育成：教材の開発（著書）

高校生向けイノベーション教科書の作成
マイナビ

佐藤浩章（大阪大学）
軽部　大（一橋大学）
河合亜矢子（学習院大学）
星合隆成（崇城大学）
木村めぐみ（一橋大学）
館野泰一（立教大学）



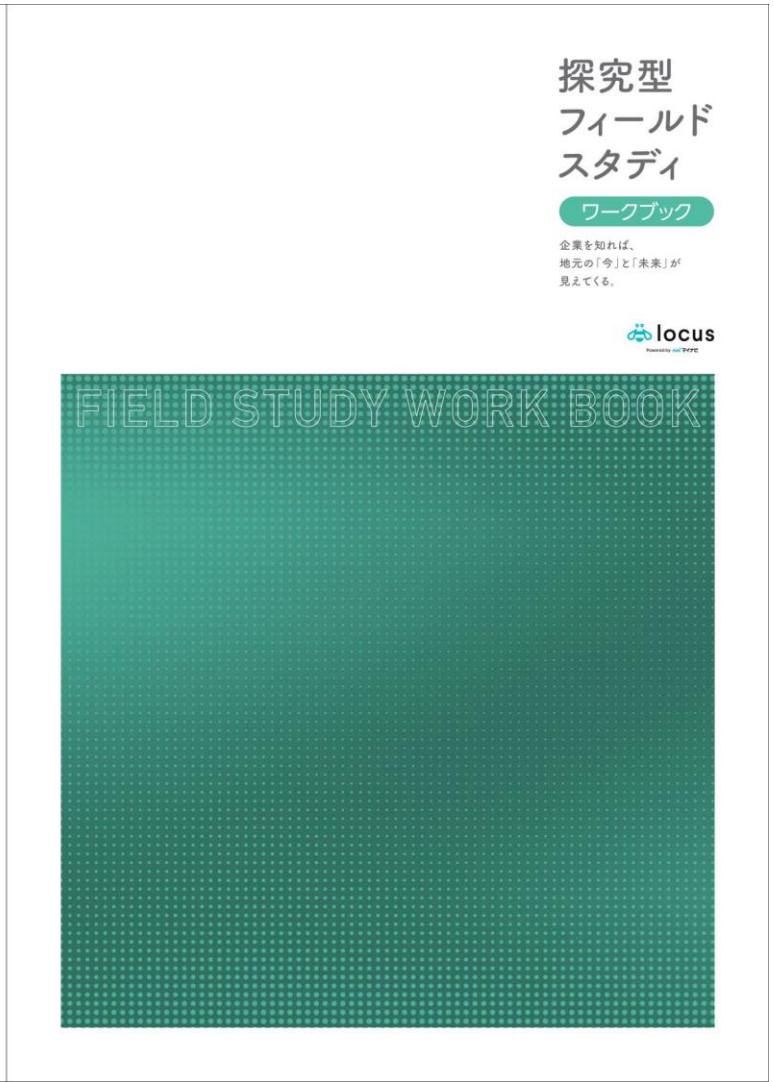
locus
Powered by マイナビ

発　　行：株式会社マイナビ　進学情報事業部
監　　修：佐藤浩章（大阪大学 全学教育推進機構 教育学習支援部 准教授）
執筆者一覧：軽部　大（一橋大学 大学院 経営管理研究科 教授、イノベーション研究センター 教授）
河合亜矢子（学習院大学 経済学部 教授）
星合隆成（崇城大学 情報学部 教授、一般社団法人SCBラボ所長・理事）
木村めぐみ（一橋大学 イノベーション研究センター 特任講師）
調 査 分 析：館野泰一（立教大学 経営学部 特任准教授）

2020年2月作成

※本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、
発行者の承諾を得ずに無断で複写、複製（コピー）することは禁じられています。
©Mynavi Corporation

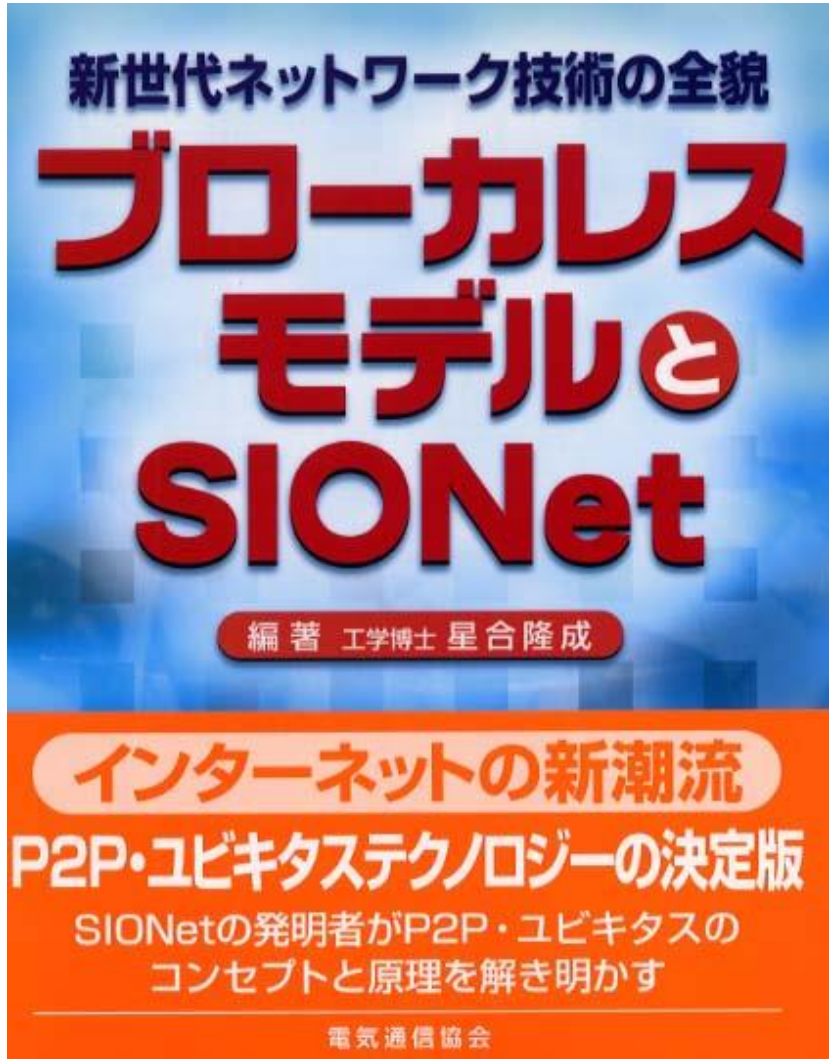
年　　組　　番
氏　名



人材育成：教材の開発（著書）

2021.3　森北出版

人材育成：教材の開発（著書）



人材育成：教材の開発（著書）

実教出版　高等学校教科書副読本
じっきょう商業資料96号
（2014年2月10日発行）

じっきょう
商業教育資料 No.96 通巻384号

6．地域コミュニティブランドとの出会い

地域コミュニティブランドとは，星合隆成博士（熊本県崇城大学情報学部教授）が提唱する地域活性化・産業振興・コミュニティビジネスの具体的な手法である。モノづくりを通してコミュニティをつくる活動の過程を，物語性をもって発信することで，共感や絆，繋がりを醸成し，“活動”をブランド化していく。コミュニティとモノづくりが，関連しながら成長していくことを目的としている。

私たちの活動は，この地域コミュニティブランドの考え方に基づいて進めている。闇雲に活動するのではなく，理論に沿うことで，思わぬ広がりや大きな展開へ進展することになった。特に意識した点は，「活動にストーリー性」を持たせることである。結果のみを掲載するのではなく，そこに行き着くまでの過程を掲載することで，ストーリーが生まれ，多くの人に共感されるようになった。

イノベーションハブ構築に向けて：４つのミッション

- 人材育成（学びの場の提供、教材の開発）
- プロモーション
- アクティビティ推進
- 産官学連携

プロモーション：記事掲載（90件）

9 経済 令和2年(2020年)11月17日 火曜日 熊本

蔦屋三年坂

イノベーション 拠点に

崇城大IOT・AIセンターと、九州で書店を展開するニューコ・ワン、一般社団法人SCBラボ（いずれも熊本市）の3者は16日、蔦屋書店熊本三年坂（同市中央区）を、イノベーション創出の活動拠点とするための包括連携協定を結んだ。

「同大の知恵と情報力を組み合わせて、新しい発想や価値観を生み出す熊本発のイノベーションの創発に取り組んでおり、ニューコ・ワンが協力を依頼した。

同書店では、イノベーションに取り組む人を取り上げ、新たな発想の基になっている物事などを理論的に解説するイベントを定期的に開催、イノベーションに関する図書コーナーも設ける計画だ。

蔦屋書店をイノベーション教育や人材育成の拠点にして、熊本の発展につなげたい」と星合センター長。ニューコ・ワンの冨田貴社長は、書店は地域コミュニティー作まれる場所になるべきだとして、他の店舗にも取り組みを広げていきたい」と話した。（飛松佐和子）

教育、人材輩出 崇城大など連携協定

連携協定を結んだ崇城大IOTセンターの星合隆成センター長（左）とニューコ・ワンの冨田貴社長＝16日、熊本市蔦屋

イノベーション拠点に　蔦屋三年坂　教育・人材輩出, 熊日新聞, 2020.11.17

協定・締結 agreement

熊本市社会福祉事業団と連携協定を締結 崇城大学とSCBラボ

一般社団法人SCBラボ（熊本市西区池田4丁目）、崇城大学IOT・AIセンター（センター長・星合隆成崇城大学情報学部教授）ならびに社会福祉法人熊本市社会福祉事業団は8月4日、包括連携協定を締結した。

熊本市役所4階市政記者室を会場に調印式開催。式には永目工嗣熊本市社会福祉事業団理事長、田尻博子SCBラボ副代表理事、星合隆成崇城大学IOT・AIセンター長ら参加型のワークショップの開催、共同研究などを実施するとしている。

▲調印書を手に記念撮影に応じる出席者ら。左から星合隆成崇城大学IOT・AIセンター長、永目工嗣熊本市社会福祉事業団理事長、田尻博子SCBラボ副代表理事

▶記者の質問に答える星合隆成崇城大学IOT・AIセンター長

くまもと経済 2020.9 166

熊本市社会福祉事業団と連携協定を締結, くまもと経済9月号, 2020.9

市社福事業団、崇城大、SCBラボ

共生社会構築へ連携

熊本市

熊本市社会福祉事業団（いずれも熊本市）と崇城大IOT・AIセンター（県内の有志企業・団体でつくる一般社団法人SCBラボ（熊本市）の3者は1日、福祉分野で活躍する人材育成（ICT）を活用した人口減少や高齢化といった現代社会の福祉分野における諸課題を目的とした包括連携協定を結んだ。

情報提供を通じ、人の活動とモノを一体的にブランド化する地域コミュニティブランド（SCB）理論を定義し、ICTを使った解決策を探る。また、事業団と市の職員は、SCBラボの理論を学ぶ。

市役所で会見した崇城大IOT・AIセンター長の星合隆成教授は「3者が尊意分野をつなぐことで人材を育て、地域共生社会づくりにつなげたい」と話した。（飛松佐和子）

包括連携協定を結んだ（左から）崇城大の星合隆成教授、熊本市社会福祉事業団の永目工嗣理事長、SCBラボの田尻博子副代表理事＝熊本市役所

市社福事業団　崇城大学　SCBラボ　共生社会構築へ連携, 熊日新聞, 2020.8.8

崇城大情報学部教授 星合 隆成氏

地域革新とP2P

人や組織、モノつなげ価値創出

少子高齢化、東京への一極集中、新型コロナウイルスの感染拡大などが、地域経済や地域活性化に深刻な影響を及ぼしている。これらの解決に向けた、地域創生の有効手段は、「地域にイノベーションを創発する」ことである。

イノベーション創発は、「新たな発想で新たな価値観を生み出す」ことを意味し、「技術革新」と「新結合」に大別される。

技術革新は、技術の進展（革新的な技術）によって新たな価値観を生み出すことである。技術革新の成功事例として、産業革命がある。

第1次産業革命では、蒸気機関の発明で蒸気機関車などを生み出した。第2次産業革命の電気、第3次産業革命でのコンピューターによる新たな価値観は、世の中に大きな変革を促した。現在、第4次産業革命（インダストリー4・0）においてはAI（人工知能）、IOT（モノのインターネット）、P2P（ピア・ツー・ピア）などが主要技術として位置づけられる。

P2Pはコンピューター同士、ユーザー同士を直接つなげるネットワーク技術である。コンピューターは一般的にサーバー（仲介者）を介してつながるが、仲介者なしプロトコル（ルール）のP2Pの技術が様々な分野で革新的なサービスを生み出した。インターネット電話のスカイプ、仮想通貨のブロックチェーン、SNS、P2P保険などである。

一方、新結合は「新たなつながりによって新たな価値観を生み出すことを意味する。我々は、この新結合が地域のイノベーション創発に有効と考えている。地域に点在する様々な資源同士の新たなつながりによって、新たな価値観を創出するのである。新結合によって地域にイノベーションを創発することを「地域イノベーション」と呼んでいる。そして、この地域資源を科学的につなげる手法としてP2Pに着目した。

P2Pの考え方を応用し、コンピューター同士が直接つながるように、人や組織、モノなどが結びつき地域イノベーションを創発する取り組みを「地域コミュニティブランド（SCB）」と定義した。熊本県、熊本市、ソフトバンク、マイナビなどが加盟する一般社団法人「SCBラボ」を中心に、全国50のプロジェクトを推進している。地域発展を目指し、様々な地域活性化の活動に取り組んでゆく。

社説「オピニオン」

西日本新聞 2020.5.10

「オピニオン」地域革新とP2P, 西日本新聞, 2020.5.10

「イノベーション創発」

新たな価値観が地域を救う

崇城大学教授
早稲田大学招聘研究員
SCBイノベーションアカデミー校長

P2P提唱者
工学博士　星合 隆成

① 地域イノベーション 新たなつながり 価値を創出

② 技術革新 今は「第4次産業革命」

③ P2Pの誕生 「仲介者」不要 ユーザー資源活用

④ P2Pの誕生 つながりに価値 新たなマネタイズ

⑤ P2Pサービス 鍵はユーザー同士の協力

⑥ SCB理論 地域資源＋新結合＋P2P

⑦ SCB理論 情報の拡散とプラットフォーム化を

⑧ SCBラボの取り組み 理論普及へアカデミー開設

イノベーション創発　新たな価値観が地域を救う, 産経新聞コラム連載①～⑧, 2020.4.17～2020.6.12

プロモーション：記事掲載（90件）

日本経済新聞

「ICT活用し地方創生」　崇城大など講座

ネット・IT　九州・沖縄　熊本

2020/5/1 16:32|日本経済新聞　電子版

情報通信技術（ICT）を地方創生に生かす手法を学ぶ講座が熊本市と福岡市で開講し、5月中に講義を始める。崇城大学（熊本市）を中心に、ソフトバンクやマイナビなども参加するSCBラボ（熊本市）が運営する。社会人や起業を考える人向けで、地域の課題解決に取り組むイノベーション人材の育成をめざす。

講座はゼロテンパーク（福岡市）が運営するシェアオフィス「ザ・カンパニー」で開催する予定。ただ、福岡、熊本両県に緊急事態宣言が発令されているため、5月からの6回は、オンラインで実施する。

講師はSCBラボで所長を務める崇城大情報学部の星合隆成教授のほか、ソフトバンクやケーブルテレビのジュピターテレコム（JCOM）の担当者が務める。星合教授は元NTT研究所主幹研究員で、NTT勤務時代にブロックチェーンや保険など金融業界で浸透している「ピア・ツー・ピア（P2P）」理論を提唱した。

星合教授は「地域にある既存の資源を違う視点でつなげると、規模の小さな自治体でも新たな価値が創出できる。このイノベーションを学んでほしい」と話している。

崇城大などの講座が開かれる、ザ・カンパニー熊本（熊本市）

「ICT活用し地方創生」 崇城大など講座, 日経新聞, 2020.5.1

熊本の地域コミュニティー構築に向け連携協定

崇城大学、県、熊本市など6者

熊本の地域コミュニティ構築に向け連携協定, くまもと経済2月号

七輪焼肉安安に相次ぎオープン

北関東エリアに出店狙う

地域イノベーションは新結合

県内の2団体が金賞

地域イノベーションは新結合, ぐんま経済新聞, 2020.1.23

防災×ICT教育 好評

小中高生向けに実践的取り組み

「県民の課題」関心引く

熊本市のSCBラボ　人材育成に期待

西日本新聞, 2020.1.20

ICT駆使　災害乗り切れ

安全な避難表示、救援物資円滑に…

プログラム学習 成果発表

県内小中高生

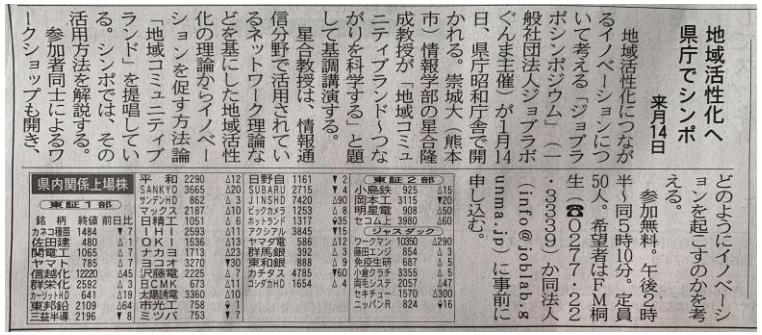
ICT駆使　災害乗り切れ, 熊日新聞, 2019.12.31

既存資源結び地域活性化を

ジョブラボ　県庁でシンポ

地域にイノベーションを起こす手法を語る星合氏

既存資源結び地域活性化を　県庁でシンポ, 上毛新聞, 2020.1.15


地域活性化へ県庁でシンポ

来月14日

地域活性化につながるイノベーションについて考える「ジョブラボシンポジウム」（一般社団法人ジョブラボぐんま主催）が1月14日、県庁昭和庁舎で開かれる。崇城大（熊本市）情報学部の星合隆成教授が「地域コミュニティブランド～つながりを科学する」と題して基調講演する。

星合教授は、情報通信分野で活用されているネットワーク理論などを基にした地域活性化の理論からイノベーションを促す方法論「地域コミュニティブランド」を提唱している。シンポでは、その活用方法を解説する。

参加者同士によるワークショップも開き、どのようにイノベーションを起こすのかを考える。

参加無料。午後2時半～同5時10分。定員50人。希望者はFM桐生（☎0277・22・3339）か同法人（info@joblab.gunma.jp）に事前に申し込む。

地域活性化へ県庁でシンポ　来月１４日, 上毛新聞, 2019.12.28

ICT活用講座　福岡、熊本市, 西日本新聞, 2020.1.18

プロモーション：記事掲載（90件）

協定・締結

県立熊本西高校と包括連携協定

崇城大学とSCBラボ

崇城大学（熊本市西区、池田４丁目中山峰男学長）ならびに一般社団法人SCBラボ（熊本市西区池田４丁目（崇城大学内）嶋田英敬代表理事）は12月13日、県立熊本西高校と、イノベーション教育に関する包括連携協定を締結した。県内の県立高校との協定締結は初めて。

高校生を対象としたイノベーション教育の推進を目的としたもので、SCBラボが運営するSCBイノベーションアカデミーの地域活性化人材教育プログラム・SCB理論、情報発信のためのコンテンツ製作、ICT技術などの学習機会の提供のほか、イノベーション創出のための施設の運営・活用を協力して行うとしている。同アカデミーは、熊本市中央区桜町のコワーキングスペース・THE CAMPANYで、来年四月から開校を予定している。

▲左から田尻博子一般社団法人SCBラボ理事、中山峰男学長、柿下耕一県立西高校校長、SCB理論提唱者・星合隆成崇城大学情報学部教授

▶挨拶する中山峰男学長

235　くまもと経済 2020.1

2020年1月号　くまもと経済　vol.463　P.235

熊本県立熊本西高と包括的連携協定, くまもと経済, 1月号

イノベーション人材育成で連携

崇城大、熊日など6者

イノベーション人材育成で連携, 熊日新聞, 2019.12.27

イノベーション人材育成へ熊本県・市・崇城大が協定

2019.12.27 07:00 | 地方 | 熊本

反応　文字　印刷

イノベーション人材の育成を進めようと、熊本県・市と、同市内にある崇城大学と一般社団法人ＳＣＢラボなどが２６日、包括的連携協定を締結した。同大情報学部教授で、ラボ所長の星合隆成氏が提唱する人や組織の最適な結びつきを目指す「地域コミュニティーブランド（ＳＣＢ）理論」の普及を目指す。

協定には４者のほか、シェアオフィス「ザ　カンパニー」を運営するゼロテンパーク（福岡市）と熊本日日新聞社（熊本市）が参加した。

イノベーション人材育成へ熊本県・市・崇城大が協定, 産経新聞, 2019.12.27

イノベーション人材育成目指す

崇城大・熊本西高など包括的連携協定

崇城大学（熊本市）と熊本西高校（同）、一般社団法人SCBラボ（同）は13日、イノベーション人材の育成を目的に包括的連携協定を締結した。教育機関と連携協定を結ぶのは初めてで、高大接続に主体的に取り組む人材の育成（中山峰男学長）を目指すという。

同大学では包括的に情報学部の星合隆成教授は、務連絡用を主目的に開発したポケットベルが女子高校生のコミュニティーツールになった事例を挙げたうえで「既存の資源を活用し、新たなつながりによって、地域に対する新たなイノベーションは大切」とした。その新たな結合を住むための基本的な考え方や手法を学ぶ別棟の場を提供したい」と連携に至った背景を説明。

来年度にサイエンス情報科を新設する同高の柿下耕一校長は「連携によって、生徒が先端の技術革新の情報・地域貢献に触れ、それによる「新たな価値の創出」に意気込みを語った。

持ち歩く産経新聞、産経電子版
●マルチデバイス機能
●90日分の過去紙面を閲覧
●かんたん記事スクラップ
●どこでも読める地域ページ
（受付時間：平日10:00～17:00）
0120-34-3276　月1,980円
https://denshi.sankei.co.jp/

イノベーション人材育成目指す 崇城大・熊本西高などが包括的連携協定, 産経新聞, 2019.12.14

イノベーションへ連携

崇城大など　教育プログラム開発

崇城大と熊本西高、ョン教育を連携して進て新たな価値観を生み崇城大学が設立した めようと、包括連携協出し、産業創出や地域「一般社団法人「SCB定を締結した。ICTなどを活用した活性化につなげていきたい」と述べた。（平井智子）

SCBラボ所長で崇城大情報学部の星合隆成教授は「これからの時代は『つながり』にご価値がある」とイノベーションの基本要件を強調。西高の柿下耕一校長は「新しい価値を創出する人材育成を前へ進めることができる」と期待した。

崇城大の中山峰男学長は「社会革新を担う多くの高校と連携したい」と述べた。

イノベーション人材育成で連携, 熊日新聞, 2019.12.27

人を結ぶコンピューター理論

起業促進や地域活性化、コースを来春新設

熊本・崇城大星合教授が研究

人を結ぶコンピューター理論　熊本・崇城大の星合教授が研究, 産経新聞19面, 2019.11.6

地域活性化のための理論と実践法を学ぶ新コース開設

また同大は来年４月、情報学部に地域活性化理論「SCB理論」とその活用法を学ぶ新コースを開設する。

同大学情報学部の星合隆成教授が提唱する地域活性化を目的としたSCB理論をベースに、地域活性化の実践的なプログラムである「SCBアクティブラーニング」を導入した新コース。来年10月からは全学部での開設を予定している。「SCBアクティブラーニング」は、地域活性化に向け、地域資源を効率的な活用するための連携のあり方をIOTやAIといった先端技術を取り入れ科学的に考察しようという試み。金融機関、省庁からも、地域活性化、中小企業の支援策として、同理論及び実践のためのプログラム導入が計画されているという。

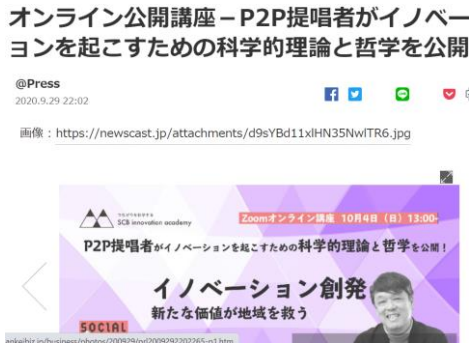
くまもと経済 2019.10　278

2019年10月号　くまもと経済　vol.460　P.278

新コース設立, くまもと経済, 2019.10月号

プロモーション：記事掲載（90件）

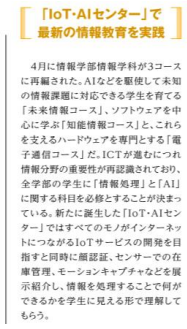
IoT・AIセンター, くまもと経済10月号, 2020.10



オンライン公開講座－P2P提唱者がイノベーションを起こすための科学的理論と哲学を公開, SankeiBiz, 2020.9.29

熊本の未来を担う高校生へ　イノベーション人材育成講座を実施, J:COMレギュラー番組第2回SCBイノベーションアカデミー, 2020.9.1

熊本市社会福祉事業団との包括連携協定を締結, J:COM「ジモト応援！熊本つながるNews」, 2020.8.21


「IoT・AIセンター」で最新の情報教育を実践

4月に情報学部情報学科が3コースに再編された。AIなどを駆使して未知の情報課題に対応できる学生を育てる「未来情報コース」、ソフトウェアを中心に学ぶ「知能情報コース」と、これらを支えるハードウェアを専門とする「電子通信コース」だ。ICTが進むにつれ情報分野の重要性が再認識されており、全学部の学生に「情報処理」と「AI」に関する科目を必修とすることが決まっている。新たに誕生した「IoT・AIセンター」ではすべてのモノがインターネットにつながるIoTサービスの開発を目指すと同時に顔認証、センサーでの在庫管理、モーションキャプチャなどを展示紹介し、情報を処理することで何ができるかを学生に見える形で理解してもらう。

IoT・AIセンターで最新の情報教育を実践, 読売新聞, 2020.7

熊本の未来を担う高校生へ　イノベーション人材育成講座を実施, J:COM「ジモト応援！熊本つながるNews」, 2020.8.21

未来の社会を見据えた情報教育と英語教育

情報化、グローバル化の未来に対応できる人材の育成に、いち早く取り組んできた。

今年4月からは、情報学部情報学科に「未来情報コース」を新設し、「知能情報コース」「電子通信コース」を含めた新編成でスタート。IoT・AI・ロボットの実践的な学びの場となるIoT・AIセンターもオープンし、高度なAI、情報通信技術を駆使して地域や社会の課題を解決できるのは「何を学んだか」ではなく、「何ができるようになったか」を問う。「学生は、入学時から担任の他に1人の教員がつく入試内の学生をきめ細かにサポートするチューター制を導入しており、「先生との距離が近く、自分からのびのびとかかわることが学生からの評価も高い。熱心な教員たちの存在も、学生たちのモチベーションの火付け役となっているようだ。

材を送り出していくために、キャンパスの情報化をいっそう進めていく計画です」（中山学長）

情報学から工学、芸術まで多彩な学部を展開する同大学では、どのような

IoT・AIセンター

未来情報コースが開校, 朝日新聞, 20207.29

J:COMレギュラー番組「イノベーション創発」, 2020.4.1

プロモーション：記事掲載（90件）

「新結合」イノベーションの萌芽をつかむには？, 群馬テレビ, 2020.1.14

子どもたちが避難誘導をプログラミング, RKkテレビ(Yahoo ニュース), 2019.12.29

イノベーション人材育成等にむけた包括協定, RKKテレビ(Yahoo ニュース), 2019.12.26

R/LAB, FM桐生, 2019.10～

地域コミュニティブランド～繋がりを科学する～, エフエム熊本, 2019.1.28

イノベーションハブ構築に向けて：４つのミッション

- 人材育成（学びの場の提供、教材の開発）
- プロモーション
- アクティビティ推進
- 産官学連携

アクティビティ推進：総務省ICTクラブ(4回)

アクティビティ推進：電子情報通信学会 CS研究会／ CAS研究会

アクティビティ推進：入学前スクーリング

アクティビティ推進：包括連携協定調印式

蔦屋書店

熊本県立熊本西高校

アクティビティ推進：J:COM番組制作

アクティビティ推進：未来情報コースの講義＆卒業研究

アクティビティ推進：共同研究

- 早稲田大学・総務省 Fed4プロジェクト
- 熊本市北区役所
- 熊本市社会福祉事業団

アクティビティ推進：視察対応

- ソフトバンク
- オムロン
- マイナビ
- 熊本県庁
- 熊本市役所
- 電子情報通信学会
- 福祉団体
- 幼児教育団体
- テレビ局関係者
- 福岡工業大学
- 肥後銀行

アクティビティ推進：
蔦屋書店にイノベーションコーナーを設置

総務省「地域ICTクラブ」地域実証事業を受託

総務省 MIC Ministry of Internal Affairs and Communications

ご意見・ご提案　ENGLISH(TOP)　ENGLISH(ICT POLICY)　アクセシビリティ閲覧支援ツール　文字

Google カスタム検索

総務省の紹介 | 広報・報道 | 政策 | 組織案内 | 所管法令 | 予算・決算 | 申請・手続

総務省トップ > 広報・報道 > 報道資料一覧 > 「地域ICTクラブ」地域実証事業に係る採択候補の決定

報道資料

令和元年7月10日

「地域ICTクラブ」地域実証事業に係る採択候補の決定

総務省では、「地域ICTクラブ普及推進事業」に係る企画案の公募を行い、外部有識者による評価会の結果を踏まえ、採択候補(17件)を決定しました。
また、「地域ICTクラブの設立・運営に関するガイドライン(初版)」を策定しました。

【四国】 高知県	高知ICTクラブ推進協議会 （高知みらい科学館（高知市教育委員会））	(4)(5)	1.高知県 2.科学館と高専との連携を中心とした新しいIoT人材育成モデル
【九州】 熊本県	熊本市防災ICT人材育成協議会 （一般社団法人SCBラボ）	(4)(5) (9)	1.熊本市 2.「防災」をキーワードに地域の力を結集する地域課題解決型モデル
【沖縄】 沖縄県	おきなわICTクラブ運営協議会 （一般社団法人おきなわジュニア科学クラブ）	(2)(3) (10)	1.沖縄市、宜野湾市 2.こどもの居場所づくりと連携し、STEM教育を展開する地域ICTクラブモデル

イノベーションハブ構築に向けて：４つのミッション

- 人材育成（学びの場の提供、教材の開発）
- プロモーション
- アクティビティ推進
- 産官学連携

産官学連携：包括的連携協定（19団体）

①熊本朝日放送（KAB）
②エフエム熊本
③熊本ヴォルターズ
④Nasse(株)サンマーク
⑤J:COM九州
⑥熊本信用金庫
⑦(株)オーリ
⑧熊本県
⑨熊本市
⑩熊本日日新聞社
⑪The Company(株)ゼロテンパーク

包括協定 熊本県ほか6社協定

蔦屋書店三年坂との協定

⑫(株)マイナビ
⑬熊本県立熊本西高校
⑭早稲田大学総合研究機構
⑮熊本市社会福祉事業団
⑯熊本市北区役所
⑰蔦屋(ニューコワン株式会社)
⑱未来会議室
⑲熊本YMCA

⑧～⑲：2020年以降に締結

２．オープニングセレモニーの概要

イノベーションハブオープニングセレモニー

▪ 崇城大学IoT・AIセンター　▪ 蔦屋書店熊本三年坂　▪ 群馬県庁

▣SCB理論を用いたイノベーションハブ（拠点）の構築

▣3拠点の連携によるシナジー効果の発揮・産官学連携

期日：2021年4月吉日
オンラインによるセレモニーを開催

・包括協定締結記念
・未来情報コース開設記念

世界初の地域活性化・イノベーション創発の理論である
地域コミュニティブランド（SCB理論）を用いた
イノベーションハブの設計・構築・評価

会場

崇城大学
IoT・AIセンター

蔦屋書店熊本三年坂

群馬県庁

早稲田大学

出演者

崇城大学・中山学長

熊本市・大西市長
崇城大学・星合教授
ニューコワン・塩原社長

群馬県庁
ジョブラボぐんま・宮坂代表

早稲田大学
北川名誉教授

ステージイベント

第1部・基調講演(各10分)
イノベーション創発に向けた多様な取り組み

北川名誉教授
元三重県知事

囲碁を通じた福祉分野のイノベーション

中山学長

IoT・AIセンターが目指すイノベーション

塩原社長

書店におけるイノベーションの取組

群馬県庁

群馬県のイノベーション「熱源」の取組

第2部・パネル討論(50分)
イノベーション創発～新たな価値観が地域を救う～

北川
名誉教授

星合教授
SCB理論提唱者

新たな発想が地域を救う

大西市長

熊本市イノベーションの取組

宮坂代表

ジョブラボぐんまの取組

記念囲碁対局
北川名誉教授 vs 星合志保(プロ棋士)

司会: 長船なお美

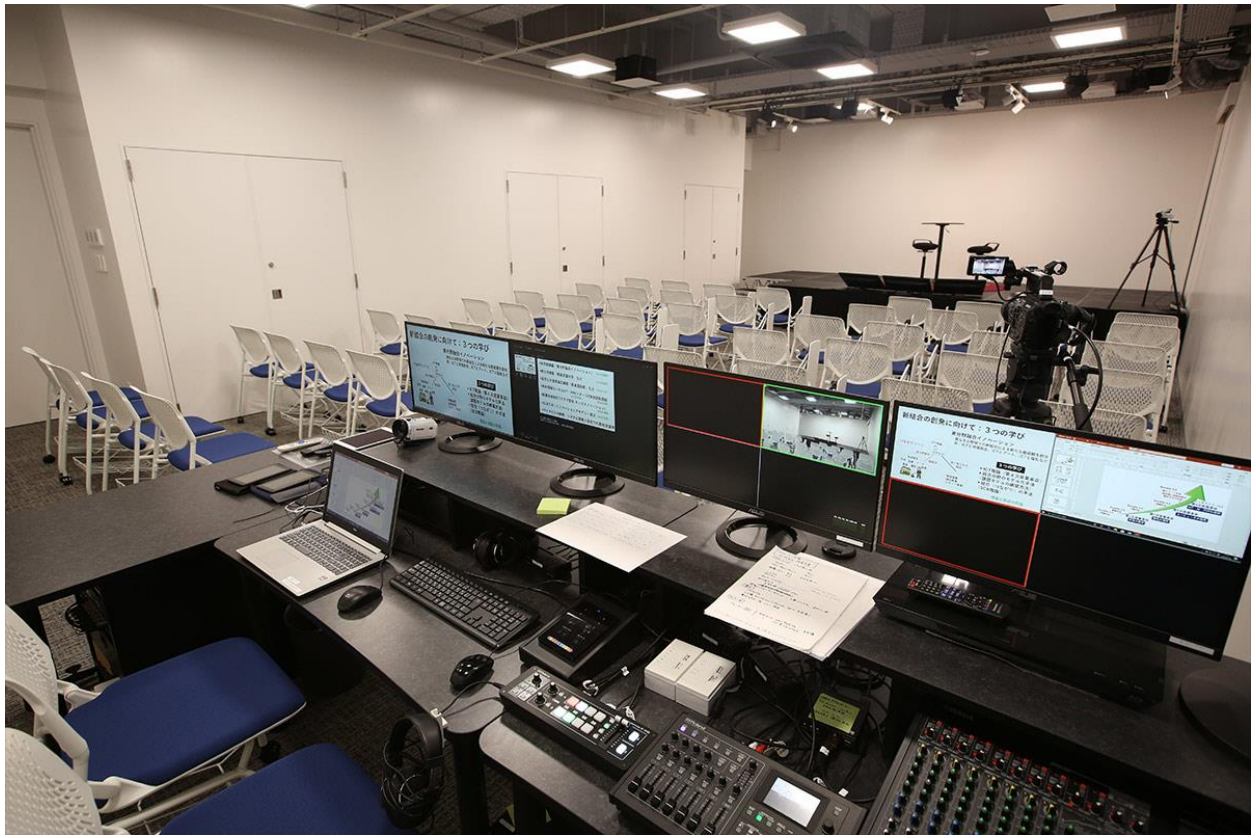
熊本のイノベーションハブ構想について
産経新聞
紙上対談

THE SANKEI NEWS

・J:COMレギュラー番組
・コミュニティFM放送

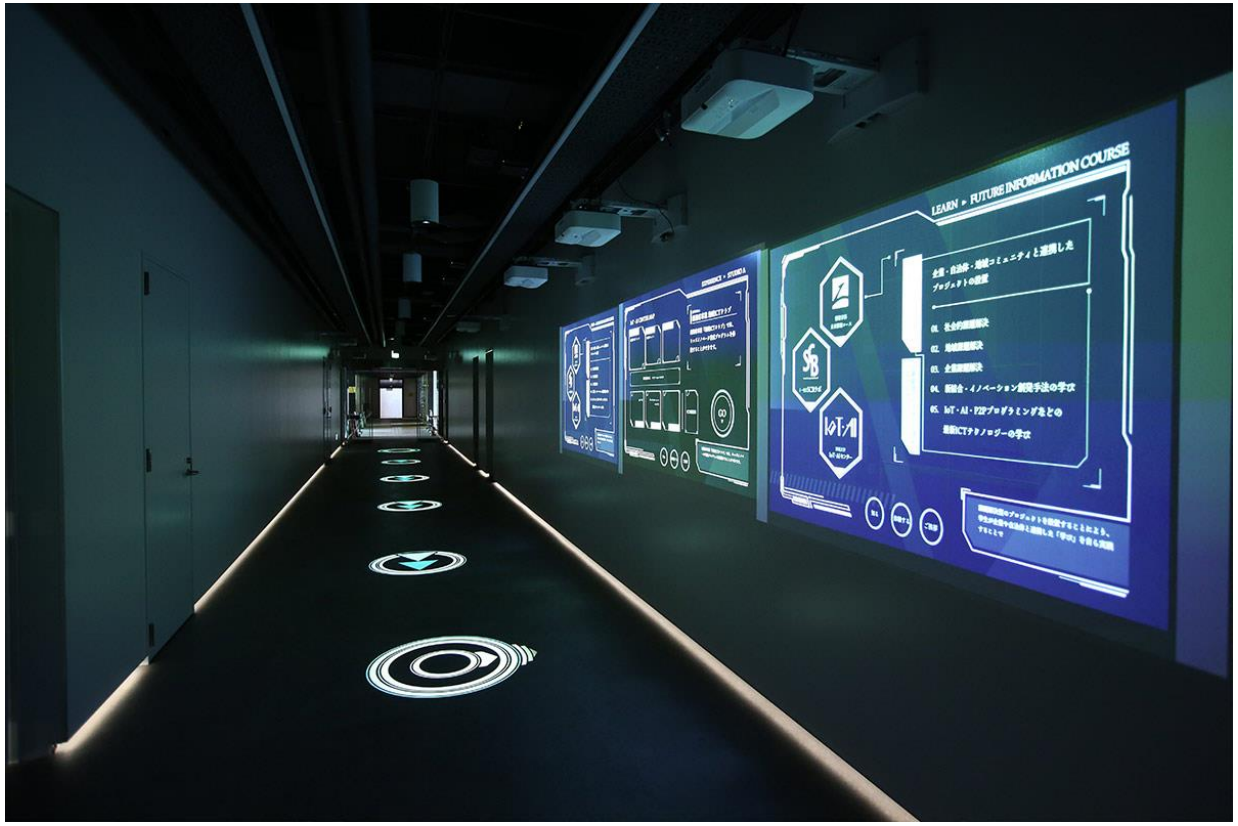
３．IoT・AIシステムの開発状況

システム開発：プレゼンテーションルーム



システム開発：ナビゲーションシステム

システム開発：PV/ナビ映像



システム開発：避難経路システム（簡易版）

日新聞　（第3種郵便物認可）

ＩＣＴ駆使 災害乗り切れ

安全な避難表示、救援物資円滑に…

プログラム学習 成果発表

県内小中高生

災害時にさまざまなＩＣＴ（情報通信技術）を駆使する方法を学んだ子どもたちによる発表会が29日、熊本市西区の崇城大ＩｏＴ・ＡＩセンターであり、避難経路を分かりやすく伝えたり、救援物資を円滑に行き渡らせたりするなどの学習成果を披露した。

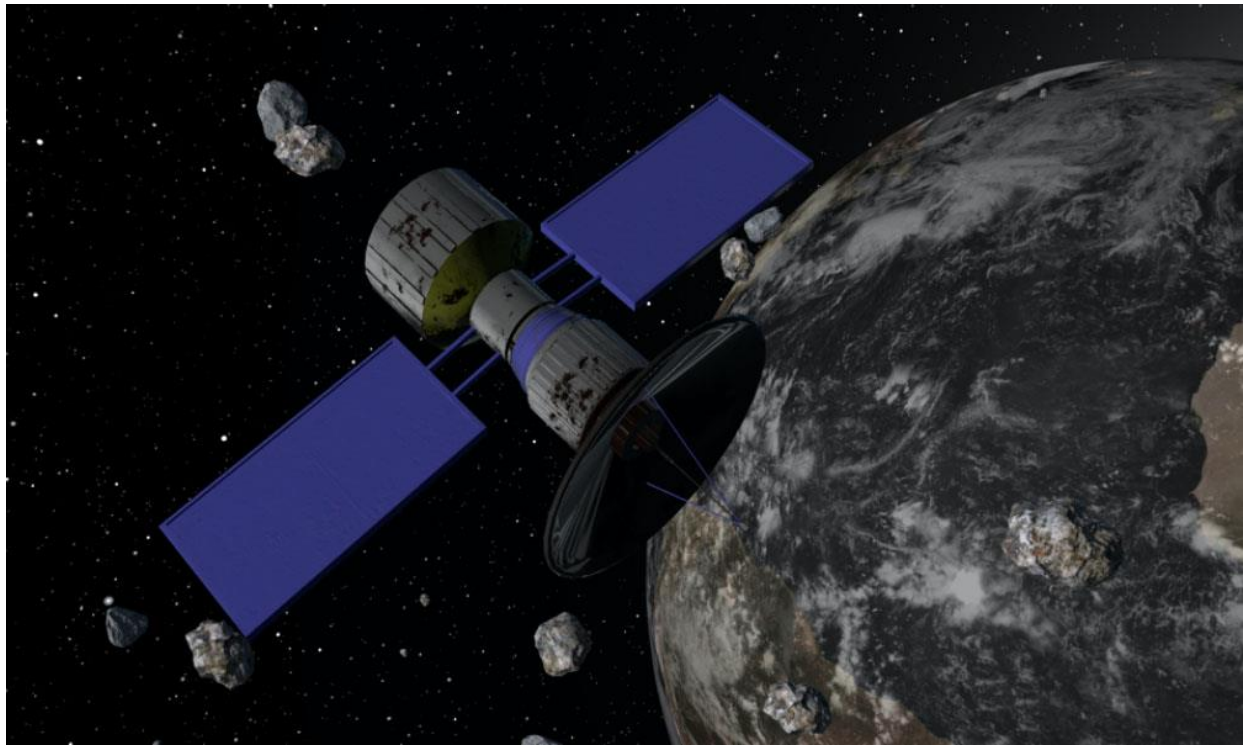
県内有志で設立した一般社団法人「ＳＣＢラボ」などが1日、総務省の事業を受託して講座を開講。防災プログラミング（5回）とクラウド活用防災（4回）の2コースに小学2年～高校2年の計60人が参加した。

参加者は、熊本地震で拡散した「ライオンが逃げた」という画像を、グーグルの画像サービスを使ってテマと判断する手法や、センサーを使って火災を感知し、安全な避難経路を矢印で自動表示するプログラムといった成果を発表。熊本西高2年の大塚悠斗さんは「災害はひとごとではない。幅広い参加者と交流できて刺激を受けた」と話した。（太路秀紀）

ぷれすけ おすすめ

ドライヤーで温度を上げた模擬火災を感知し、自動で最短の避難経路を矢印で示すプログラムを実演する中学生＝熊本市西区

システム開発：
宇宙空間プロジェクションマッピング



４．予算の執行状況

予算の執行状況

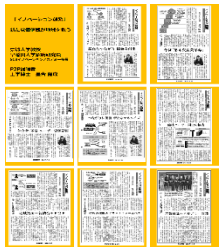
５．次年度計画

(一社)SCBラボ・崇城大学IoT・AIセンターのイノベーション創発に向けた取り組み

2020年12月6日

① イノベーション創発のための理論であるSCB理論の普及

- 講演会300件
- 新聞雑誌掲載500件、産経新聞で8回連載
- 西日本新聞社説コラム
- 高校での授業（図1）7件



② 人材（イノベーター）の育成

- 教材の開発（図2）　「イノベーション創発」刊行予定
- 教育プログラムの開発
- 学びの場の構築（イノベーションアカデミー図3）

③ イノベーション推進・サポート

- アクティビティ/プロジェクト50件

④ 産官学連携の推進

- 包括連繋協定締結18団体（図4）
（熊本県・熊本市・早稲田大学・熊本日日新聞社・マイナビ・蔦屋熊本三年坂など）

⑤ 法人企業のコンサル・プロモーション

SCBメソッド(51項目)による企業分析（図5）, J:COMレギュラー番組（図6）

⑥ 子ども・初心者向けプログラミング教室（図7）

テキスト：はじめてのpython(森北出版)より出版

⑦ イノベーションハブの構築

（蔦屋書店熊本三年坂（図8）、
崇城大学IoT・AIセンター（図9）、群馬県庁）

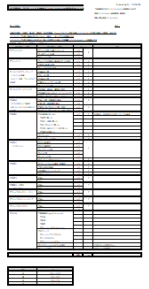


図5 SCBメソッド
イノベーションチェックリスト

図4 包括協定 熊本県ほか6社協定

蔦屋書店三年坂との協定

図7 子どもプログラミング教室

図6 J:COMレギュラー番組

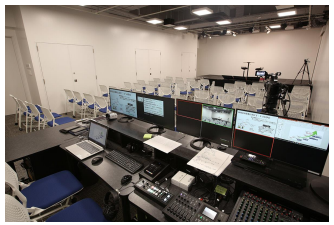


図1 ルーテル高校
イノベーション授業

図2 出版された教材

図3 SCBイノベーション
アカデミー熊本校、他5校

図8 蔦屋書店イノベーションハブ

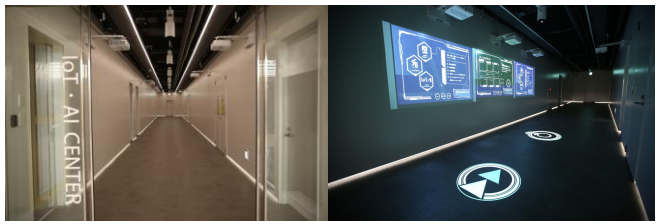


図9 崇城大学IoT・AIセンター

1998年
世界初のP2Pを提唱

NEWS RELEASE

NTT
日本電信電話株式会社

(12) **United States Patent**
Hoshiai et al.

(54) **SEMANTIC INFORMATION NETWORK (SION)**

(75) Inventors: **Takashige Hoshiai**, Tokyo (JP); **Yukio Kikuya**, Tokyo (JP); **Hiroshi Shibata**, Tokyo (JP); **Takamichi Sakai**, Tokyo (JP); **Michiharu Takemoto**, Tokyo (JP)

(73) Assignee: **Nippon Telegraph and Telephone Corporation**, Tokyo (JP)

(*) Notice: Subject to any disclaimer, the term of this patent is extended or adjusted under 35 U.S.C. 154(b) by 1105 days.

2001年4月27日

サーバを介さないピアツーピアの新技術「SIONet」を開発
ー個人が主体となったインターネットの新たな利用法を提案ー

日本電信電話株式会社（NTT）は、サーバを介さない新しい通信として期待されているピアツーピア（P2P; Peer to Peer）の新技術SIONetを未来ねっと研究所において開発しました。P2Pは、インターネットの新しい利用法として注目を集めている技術です。P2Pの利用例としては、Napster、Gnutella等のファイル・データ交換が良く知られていますが、これらはいずれも単一目的のシステムであり、P2Pの一利用例に過ぎません。

NTT研究所の開発したSIONetはファイル交換に限ることなく、個人が主体となり自由で多彩な情報送受をサポートするサービス、企業向け共同作業支援サービス、分ービスに適用可能な技術です。また、信頼々が安心してP2Pサービスを利用可能とす最高水準のP2P技術といえます。SIONetにコミュニティを構築することが可能となり、イす。

NTT 情報通信用語集

communication technical information terminology glossary

SIONet（シオネット）

Semantic Information-Oriented Network

ファイル交換に限ることなく，個人が主体となって自由で多彩な情報送受をサポートするサービス，企業向け共同作業支援サービス，分散コンピューティング等，多彩なP2Pサービスに適用可能な技術。世界初のP2Pテクノロジの1つであり，1998年に開発された。

意味情報でパケットを配送するネットワーク（SIONet）

2000年3月にGnutella（グヌーテラ）が発表され、これを契機にP2P*1モデルが世界中で注目されるようになりました。P2Pモデルとは、これまでのビジネスモデルにおいて一般的に用いられてきたブローカ（集中管理サーバ）を排除し、エンティティ（例えば、エンド端末）間で互いにふさわしい相手を直接探索・発見することが可能な新たなビジネスモデルです。Gnutellaは、このビジネスモデルをP2Pインタラクション方式により実現しました。一方研究所では、1998年からブローカレスモデル（P2Pモデル）を提唱するとともに、その実現技術としてSIONet*2（意味情報ネットワーク）を提案してきました。そして、1998年度末にSIONetプロトタイプα版、1999年度末にSIONetプロトタイプβ版、さらに、2000年12月にSIONet 1.0、2000年度末にSIONet 1.1の開発を完了しました。

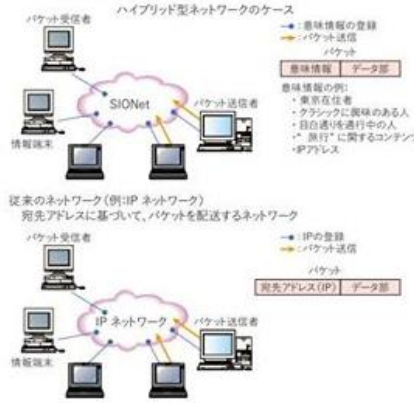
SIONetは自律分散協調方式に基づくメタネットワークです。すなわち、従来のネットワークで用いていた宛先アドレスの代わりに、意味情報に基づいてパケットを配送します。これにより、インターネット上に超分散する不特定多数のエンティティの中から、特定のエンティティを探索・発見することが可能になります。また、SIONetではその構成要素を含めたすべてのエンティティが自律分散協調することで、ネットワークを構築します。SIONetの構成要素には、意味情報スイッチ、意味情報ルータ、意味情報ゲートウェイ、イベントプレース、セッションなどがあり、これらを必要に応じて組み合わせることにより、スケーラブルでセキュアなネットワークをボトムアップアプローチで構築することができます。

今後は、SIONetのインテリジェンス層に位置付けられるコミュニティネットワークの検討を行っていきます。

（未来ねっと研究所）

*1 P2P: Peer-to-Peer
*2 SIONet: Semantic Information-Oriented Network

●従来ネットワークとSIONetの比較



YAHOO! JAPAN ニュース

ＩＣＴ理論でまちおこし、崇城大教授らが熊本の商店街に放送局

産経新聞 6月19日(金)7時55分配信

ツイート 3　シェア 277

ＳＣＢ放送局新市街スタジオで地元プロバスケチームの番組を制作する崇城大情報学部の学生（写真：産経新聞）

熊本市中央区の新市街商店街に、地域活性化の拠点として放送局が誕生した。個人所有の多数のパソコンをネットワーク化することで、スーパーコンピューターに負けない性能を発揮するというＩＣＴ（情報通信技術）上の理論を、まちおこしに応用しようという取り組みで、崇城大（中山峰男学長）情報学部の星合隆成教授が中心となっている。（南九州支局　谷田智恒）

◇

飲食店などが並ぶ、にぎやかな商店街。そのビルの１～２階に今春、崇城大の「ＳＣＢ放送局　新市街スタジオ」がオープンした。

ガラス張りで、１階部分は放送スタジオ、２階部分はフリースペースとなっている。スタジオでは崇城大の学生が、地元のプロバスケチーム「ヴォルターズ」の情報を発信するネット番組をオンエア。２階では、ＩＴ塾が開かれていた。

「人を集めるのではなく、人が集まる場所を作りたかった。アイデアや技術を持つ人々が、この場所で自然とつながり、課題解決に向けた何かを生み出す仕組みにしたい」

こう語る星合氏はもともと、地域活性化や街おこしではなく、コンピューターネットワークの専門家だ。

星合氏はＮＴＴネットワークサービスシステム研究所の主幹研究員だった。平成１０年、ネットワーク理論「ブローカレス理論」を提唱し、世界的に注目された。これは、大型のサーバコンピューターを中心にネットワークを構築・維持するのではなく、自立分散する中小型のコンピューターをつなげて、情報をやり取りするという理論だった。

ブローカレス理論を応用し、ＮＴＴ西日本は「グリッドサービス」を実用化した。ネットワークにつながった膨大な数のパソコンを活用し、スパコン並みの計算能力を実現させた。このサービスはすでに終了しているが、遺伝子の構造解析や気象予測などが行われたという。

星合氏はブローカレス理論を、コンピューターネットワーク上だけでなく、人的ネットワークの形成や地域コミュニティーの構築に応用しようと考えた。

そこで誕生したのが、地域コミュニティーブランド（Ｓｏｃｉａｌ　Ｃｏｍｍｕｎｉｔｙ　Ｂｒａｎｄ、略称ＳＣＢ）の発想だった。個人所有のパソコンをつないだように、地域おこしに関わる人々が結びつき、自発的に取り組みを進めることで、最大限の効果発揮を図る。また、その取り組みそのもののブランド化を目指す。

ＳＣＢの発想に沿って、すでに全国で５０のプロジェクトが動いている。

例えば、繊維産業の町、群馬県桐生市では「ｎｕｎｏｔｅｃｈ（布テク）」の名称で活動が始まった。地元のメディア関係者と工業デザイナーらが交流する中で、若者のアイデアを取り入れた「ｉＰａｄケース」などの商品がすでに実用化されている。

星合氏は２４年、崇城大教授に就任した。崇城大は２６年４月、熊本市西区のキャンパスに最新鋭スタジオ「ＳＣＢ放送局」を開設した。ここを拠点に人的ネットワークがつながりはじめている。「熊本競輪活性化プロジェクト」など、放送局を拠点に学生と地域住民や専門家、自治体職員も参加して、番組制作や情報発信が進んでいる。

新市街商店街のスタジオは、放送局の第２弾として開設した。番組はインターネットの動画サイトやラジオで配信している。

地域だけでなく、崇城大の学生にとっても、放送技術習得や、コミュニケーション能力向上などのメリットがあるという。

星合氏は「ＩＣＴの世界の考え方を地域に導入することで、活性化を図りたい。熊本で成功させ、全国へさらに拡大していけば、日本の底力になるはずだ」と語った。

ツイート 3　シェア 277

最終更新:6月19日(金)7時55分　, 2015

ICT（情報通信技術）は、今や私たちの暮らしに切っても切り離せないものです。SNSだって、オンラインゲームだって、ICTがなければ存在しません。そんなICTの理論を、地域活性化に利用しようという研究を進めている崇城大学情報学科の星合隆成教授に話を聞きました。
※写真：SCB放送局キャンパススタジオを運営する学生たち

世界が注目したブローカレス理論とは？

スパコン（スーパーコンピューター）というと、国家プロジェクトとして作られるように、多大なコストと時間が必要になると言われていますが、家庭で使っている多くのコンピューターをつないで、ネットワーク上にスパコンを作ってしまうことができるそうです。この考え方の元となっているのが、ブローカレス理論です。

もともとNTTの研究所で25年間、米国のベル通信研究所で2年間、次世代ネットワークやオペレーティングシステムの研究をしていた星合教授は、1998年にブローカレス理論を提唱し、世界で注目されました。ブローカレス理論とは、従来のように大型のコンピューターを中心にトップダウン的にネットワークを構築・維持するのではなく、自律分散する小型コンピューターを数多くつなげて情報をやりとりするというもの。この理論は、宇宙開発の研究や遺伝子研究にも生かされたのだそうです。

"モノ"ではなく、"つながり"をブランド化

その後、星合教授はブローカレス理論をコンピューター上だけでなく、地域における人的ネットワークや地域コミュニティづくりに応用できないかと考えました。そこで2011年、「地域コミュニティブランド（SCB）」の発想が生まれたのです。「地域活性化に関わる人たちがブローカレス理論に基づいて自律的にコミュニティを形成し、自発的に取り組みを進めることで、新たな価値が生まれます。その取り組みや"つながり"をブランド化することが目的です」。

「地域コミュニティーブランドの手法を使って、自分がやりたいことを実現してほしい」と話す星合教授

この理論を使った実証実験は全国各地で行われることになりました。群馬県桐生市では、古い歴史を持つ織物産業を生かした活動「nunotech（布テク）」が生まれ、生産者や若者、メディアなども参加し、さまざまな新商品も誕生したそうです。「大切なのは、商品ではなくその活動そのものがnunotechとしてブランド化されていることです。ああ、あの"つながり"ね、と言われるように！」ほかにも、全国で約50のSCBプロジェクトが進行中だそうです。

学びの場となっている新市街スタジオ

崇城大学では、ブローカレス理論を使った地域コミュニティブランド（SCB）の実証実験を行うため、2015年、新市街商店街（熊本市中央区）に「SCB放送局　新市街スタジオ」をオープン。星合教授を中心に、専門家や自治体、テレビ局・ラジオ局・新聞社・雑誌社などのメディア企業なども参加しながら、学生や地域の人々の活動をサポートしています。この場所を拠点に、健康やICT、農業などテーマごとに30のプロジェクトが誕生。スタジオ運営のための崇城大生による学生ベンチャー会社（http://www.conceptlab.jp/)も設立され、学生主体の運営が行われています。中には地域活動はもちろん、メディアに興味のある学生たちも少なくなく、また、学生たちは作成したコンテンツをコンテスト等に積極的に出品するなど、貴重な学びと成長の場ともなっています。

収録や放送機材を備えたSCB放送局新市街スタジオ。企業、行政、市民団体、学生などによる30近いプロジェクトが進行中！

距離を縮めるための通信手段として生まれたバーチャルな世界のICTを、リアルな地域の活性化に役立てようという、発想の転換から生まれた地域コミュニティブランドの研究により、これまでにない新しいビジネスモデルが生まれるかもしれません。

この記事のメインテーマ、関連する分野の説明

情報学・通信

情報化社会を根底から支え、文化の普及と発展に寄与する

情報通信産業には、通信業、放送業、情報サービス業、インターネット付随サービス業、映像・音声・文字情報制作業の５分野があります。近年は各分野の垣根が取り払われつつありますが、なかでも注目されているのが、インターネットに代表されるコンピュータを介した情報通信工学でしょう。高度に情報化が進んだ現代において、安全保障や経済政策はもちろんのこと、日常生活に至るあらゆるシーンで必要とされる、活躍の場の広い学問です。

読売新聞

くまもと人物語

地域活性化へ スタジオ開設

崇城大教授
星合隆成（ほしあいたかしげ）さん 53

1962年1月、徳島市生まれ。豊橋技術科学大卒。2012年4月から現職。妻、3人の子どもと離れて単身赴任中で、長女・志保さん(18)は囲碁棋士。「ブローカレス理論」は、米国留学中に「『ササエ.さん』に出てくるご用聞きのような仕組みが作れないか」と考え、思いついたという。休日はもっぱら論文や著書の執筆に充てる。

「さぁ、始まりました。ヴォルターズチャンネル！」

4月28日、熊本市中央区の新市街アーケード内のビルの一室。ネット動画サイト「Ustream」で、崇城大の学生6人によるプロバスケットボールチーム「熊本ヴォルターズ」の応援番組「ヴォルターズch」が始まった。

学生たちが試合の感想などを語り、"市民目線"でチームの情報を届ける。「学生は楽しみながら、情報技術も身に付けることができ、チームも格好のPRの場になる。双方に利益があるんですよ」と効果を解説する。

知識や技術、意欲を持った様々な立場の人たちがアイデアを出し合い、商品やサービスの事業化、地域課題の解決を図る。そこに至るまでの過程を含めてブランド化するという「地域コミュニティブランド（SCB）」理論を提唱する。「情報の受け手は、過程を知ることでより共感することができ、ブランド価値が高まる」という。

この理論の実証の場として、学生らが放送を行った崇城大学SCB放送局新市街スタジオ」を4月11日に開設した。「斬新な切り口のビジネスが生まれる可能性がある」と期待を込める。

NTTの研究所に勤めていた1998年、個人のパソコン同士がネット空間で直接つながり、コミュニケーションできる原理を示す「ブローカレス理論」を発表した。現在のフェイスブックやツイッターといったソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）につながる考えだ。

ブローカレス理論の講演で、参加者から「この考え方は地域活性化にも生かせないのか」と問われ、SCB理論にたどり着いた。崇城大教授に就任してからは、SCB理論を広めるため、各地でシンポジウムやセミナーを開催。県や合志市などと協議会を発足させ、理論の具体的な活用法も議論してきた。

その中の一つが、スタジオ開設だった。目指す先は、スタジオ発のアイデアが、新たな事業や活動に育っていく姿だ。「それぞれの分野の専門家と市民が互いに刺激し合う。そんな場所にしていきたい」

街中のスタジオから何が飛び出すか――。想定外の展開を楽しみにしている。

「イトコ」の距離感がカギ

1m84の大男だが、笑顔はとても柔らかい。取材したスタジオでも、学生と親しく話す姿に、人情味にあふれた人柄が垣間見えた。

コンピューターネットワークと地域社会という意外な取り合わせに興味を持ったが、出会いが出会いを生み、網の目のようにつながり合う様は、確かにSNSの世界と似ている。

SCBの成功には、動機付け（インセンティブ）、信頼（トラスト）、関係性（コネクト）の三つが必要だという。頭文字を取って「イトコ」だ。アイデアや知識を持つ人たちが「いとこ」くらいの距離感でつながっていけば、どんな社会が生まれるのだろうか。これからも注目していきたい。

（後藤敦人）

朝日新聞

第3種郵便物認可

インタビュー 今週のこの人

地域の事業ブランド化

崇城大学教授 星合 隆成さん(51)

――「地域コミュニティブランド」の理念を提唱し、11月下旬に県や合志市などと協議会を立ち上げました。コミュニティブランドとはどういうものですか

地域の活性化や情報化、ビジネス開発の手法です。ものづくりの過程や関わる人の活動を物語性を持って発信することで、モノだけではなく活動をブランド化します。

地方はお金がないし、多種多様な意見を生かすには企業のようなトップダウン型はうまくいきません。平等な立場で人のネットワーク、コミュニティーをつくる仕組みが必要なんです。

――コンピューターネットワークの理論がベースになっているそうですね

NTTでネットワークの研究をしていたのですが、1998年に「ブローカレス理論」というものを提唱しました。サーバーや管理者のいないネットワークです。例えばパソコン同士をサーバーを通さずにつなげると巨大なコンピューターができます。こういった考えを地域に生かせないかと考えたのがきっかけです。

――この考えを採り入れて、すでに成功した事例もありますね

織物の町として知られる群馬県桐生市では、「nuno tech」（布テク）という活動があります。繊維業界と異業種の交流や、若者らのアイデアを製品に生かした。iPadのケースなどを開発し、東京・渋谷の東急ハンズにコーナーができるまでになりました。評判は口コミで広まり、メディアにも取り上げられました。全国で約40のプロジェクトが進んでいます。

――県内ではどのような計画がありますか

私一人がすべてのプロジェクトに関わるのは難しいので、これから力を入れたいのは三つ。熊本朝日放送やエフエム熊本などと連携した番組制作、合志市で「脳テク」と名付けた認知症予防システムの構築、熊本市の熊本競輪場の活性化です。

ほかにも、熊本発のスマートフォン用アプリの開発、結婚式場と連携したブライダルブランドの開発など様々なプロジェクトがあります。

――発足したばかりの協議会の役割は

地域コミュニティブランドの普及のため、シンポジウムやセミナーの開催、新規プロジェクトなどに取り組みます。発起人になった私と荒木義行合志市長、小野泰輔副知事ら5人は相談役のような立場。具体的な活動については、企業経営者やメディア関係者ら11人の運営委員が支援します。地域コミュニティブランドが全国に広まれば、発祥の地の熊本にもメリットがあると思っています。

ほしあい・たかしげ 工学博士。昨年4月から崇城大学情報学部教授。専門はネットワーク工学。早稲田大学大学院招聘（しょうへい）研究員。元NTT研究所主幹研究員。NTT在職中に群馬大学客員教授、米国ベルコミュニケーション研究所客員研究員などを歴任。1962年、徳島市生まれ。

大分県で1979年に始まり、海外にも広まった「一村一品」運動を連想した。地元が誇れるものを作ろうという精神運動の側面もあったと聞く。「地域コミュニティブランド」はもっと複雑そうだ。ネットワーク理論を地域活性化に結びつけてしまう発想が面白い。アイデアや技術を持つ人々がつながり、何かを生み出す仕組みは、疲弊した地方には期待の星になるかもしれない。星合教授は、一見分かりにくい「地域コミュニティブランド」の方法論をまとめた本を近く出版するという。活動が成功し、広まることを期待したい。

（河原一郎）

人のつながりブランド化

群馬の織物業で成功　熊本でも

Frontier 先端を走る

地域の人のアイデアを取り入れながら、モノやサービスを創出し、人同士のつながりや活動過程を外部に発信して丸ごとブランドにする―。崇城大情報学部の星合隆成教授(50)はそんな「地域コミュニティブランド」の提唱者だ。この手法をいち早く取り入れた群馬県桐生市は、伝統の布織物業の活性化に成功している。星合教授にブランドづくりの理念や仕組みなどを聞いた。　(隅川俊彦)

「地域コミュニティブランド」を提唱

崇城大情報学部教授 星合 隆成さん(50)

■「地域コミュニティブランド」とはどんなものですか。

「ものづくりに関わる人の活動を、生まれるモノと一緒にブランド化していくことです。従来はモノをブランド化して市場に出すことが重視されてきましたが、それを生み出す人のアイデアや情熱、開発に至る失敗や苦労も情報発信してブランドにしてしまうわけです」

■人の活動をどう発信するのですか。

「ＩＣＴ(情報通信技術)を応用します。例えば、企画会議の動画をインターネット上で発信したり、開発した商品にロゴを付けたり。ロゴにスマートフォンのカメラをかざすと、その商品の評判がテロップで流れるような仕組みなど、いろんな手法があります。もちろん、フェイスブックやツイッターなど既存のＳＮＳ(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)も利用します」

■成功例はありますか。

「群馬県桐生市の『nunotech』(ヌノテク)という取り組みがあります。桐生は1200年以上続く織物の町。伝統の織物業に、地元の服飾系専門学校生らさまざまな人のアイデアを取り入れ、iPadケースや撥水(はっすい)性の高いニットキャップなど、デザイン性も高い商品が生まれました。昨年11月に始まった取り組みですが、初期生産分は完売。商品は東急ハンズ渋谷店(東京)でも取り扱われました。ブランドづくりへの人々の活動もネット上で振り返ることができます」

■発想はどこから生まれたのですか。

「私はＮＴＴ勤務時代にコンピューター同士がサーバーなしでつながる『ブローカレス理論』を提唱しました。仲介者(ブローカー)のいないネットワークです。これを新しい情報社会の活性化に応用できないかと考えました。仲介者なしで人がネットワークのようにつながっていき、新しいアイデアをどんどん取り入れていく。そこに新しいＩＣＴを応用していきます」

■人の活動とモノを一体的にブランド化する利点は何ですか。

「モノが売れなくなっても、人のつながりやノウハウは残ります。活動をブランド化したほうがブランドの寿命が長くなり、モノにも物語性を持たせやすいのです」

■熊本では具体的にどういう取り組みを進めようと考えていますか。

「今月、県内のブライダル会社と崇城大、国府高、早稲田大の研究者と一緒に新しいブライダルブランドの構築に向け、研究会を発足させました。今後１年をめどにブランドを形にしたいと思います。ほかにも複数のプロジェクトが進んでいます」

「nunotech」から生まれたiPadカバーやクッションを手にする崇城大情報学部の星合隆成教授＝熊本市西区の同大

星合教授(左端)と「地域コミュニティブランド」に関わる崇城大の学生たち＝熊本市西区の同大

◇ほしあい・たかしげ

徳島市出身。電気通信大大学院で工学博士を取得。元ＮＴＴ主幹研究員。ＮＴＴ在職中、群馬大客員教授、日本大非常勤講師、米ベル通信研究所客員研究員を歴任。サーバーなしでコンピューターがネットワークでつながる「Ｐ２Ｐ理論」を世界に先駆けて提唱し、ブローカレス理論と名付けた。2012年４月から現職。早稲田大招聘(しょうへい)研究員。

取材を終えて

1998年にＰ２Ｐネットワークの理論を提唱した星合教授は、優れた情報技術者でもある。Ｐ２Ｐネットワークは、コンピューター同士がブドウの房のようにがつながるイメージ。房は違う房ともつながり、無限に広がっていく。この考え方を元に人の発想をつなげ、活動をブランドにするという発想は斬新だ。今後、熊本でどういう展開を見せるのか注目していきたい。

ファイル交換という"禁じ手"以外で勝負を!

NTT未来ねっと研究所ネットワークインテリジェンス研究部　星合隆成 主幹研究員

NTT未来ねっと研究所で，P2P技術「SIONet（シオネット）」の開発に取り組む星合隆成主幹研究員は，P2Pソフトを音楽ファイルの交換に使うことに「ベンチャーはアイデア勝負をしてほしい」と苦言を呈す。

「P2Pは大金を投じてサーバーを作る大企業に，ベンチャーが対抗する道具。参加者のリソースを使い多大な設備投資をせずに大量の情報処理ができる。ファイル交換のような"禁じ手"でせっかくの可能性をつぶしてほしくない」

実際，昨年のNapster問題時には，「なぜそんな技術をNTTで開発するんだ」という意見もあった。SIONetは1998年に開発を始め，すでに開発は完了。タクシーの乗車希望と空車の情報をP2Pで結びつける「Demand Vehicle」などビジネスに結びつく利用法を開発中だ。

「SIONet」はファイル交換でなく情報探索レイヤーのP2P。次世代のP2P技術です，とアピール

YAHOO! JAPAN ニュース

キーワードを入力

トップ | 速報 | 映像 | 個人 | 特集 | 意識調査 | ランキング | 有料

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT 科学 ライフ

人を結ぶコンピューター理論　熊本・崇城大の星合教授が研究

11/6(水) 7:55配信

産経新聞

2019.11.6

イノベーションを担う人材育成を始める崇城大情報学部の星合隆成教授

■起業促進や地域活性化、コースを来春新設

コンピューターの理論を応用し、アイデアや能力を持つ個人同士を結びつけて、地方発の起業や地域活性化を促進する試みが、熊本市で進んでいる。来春、市内の崇城大に理論を学ぶ新たなコースが誕生するほか、ソフトバンクなど県外企業も参加し、学生や市民向けの講座やワークショップを開く。関係者は「まず熊本で実績を残し、全国に取り組みを広げたい」と語った。（九州総局　中村雅和）

旗振り役は、ＮＴＴ出身で同大情報学部の星合隆成教授だ。星合氏はネットワーク技術の専門家として、ピア・トゥー・ピア（Ｐ２Ｐ）の研究で注目を集めた。

Ｐ２Ｐは、複数のコンピューターに分散して仕事をさせることで、スーパーコンピューターに匹敵する処理能力を可能する。その技術は、仮想通貨のビットコインの取引記録管理にも使われている。

星合氏はこのネットワーク理論を応用し、人や組織の最適な結びつきを目指す「地域コミュニティーブランド（ＳＣＢ）理論」を提唱した。「長年、コンピューター同士をどう結びつけるかを研究していた。Ｐ２Ｐが社会に浸透し、次は人間同士や組織をどうつなぐかに、興味が移った」と語った。

目標ごとに個人や組織が持つ能力、実績、資金など、限定した項目を突き合わせ、最適な結びつきを模索する。

「最先端の技術革新は、世界中で大企業がしのぎを削り、地方から入り込む余地は極めて小さい。しかし、地域にあるヒトやモノを新たに結合させ、新たな価値を生み出すことはできる」

星合氏は、具体例として「ポケットベル」を挙げた。「サービス提供側は、単なる呼び出しツールと考えていた。それが女子高生と結びつき、コミュニケーションツールに生まれ変わった。このような革新は誰だって起こすことができる」と分析した。

星合氏はすでに、各地で成果を出した。群馬県桐生市では、地場の繊維産業の関係者を、それまであまり接点のなかったデザイナーや学生と直接結びつけたことで、ニーズとアイデアに気づき、ｉＰａｄケースなどヒット商品を生んだ。

また、農林水産省の組織改革や、国土交通省による「道の駅」の連携策にも取り入れられた。民間企業を含め全国で５０以上のプロジェクトが進むという。

星合氏は、ＳＣＢ理論の普及を目指す。崇城大は今年１月、星合氏が所長を務める「ＳＣＢラボ」を発足させた。さらに令和２年度に新設される情報学部未来情報コースで、ＳＣＢ理論を学生に教える。授業では、ソフトバンクなど企業担当者との実地研修も予定する。

学外では、熊本市中央区にあるシェアオフィス「ザ　カンパニー熊本」で、講座やワークショップを開く。関心のある市民が、週末を中心に、ＳＣＢ理論の基礎を学んでいる。

星合氏は「われわれには他にはない理論がある。日本の将来に不可欠なイノベーションを担える人材を育成してみせる」と語った。

キャンパススタジオ/SCB放送局

2014年～

情報学部棟

街と人、企業と活動をつなぐ発信基地。大学放送局が新たな可能性を拓く。

2014年、キャンパススタジオが開局して以来、行政や民間企業など多方面から注目を集めている崇城大学SCB放送局。
情報学部の星合隆成教授率いるSCB(「Social Community Brand」の略称)放送局は、最新鋭の設備を完備。
授業科目「メディア・コンテンツ制作入門・演習」では最新機器を用いてのプロ(TV局、ラジオ局)による講義、演習が行われ、
最先端のアクティブラーニングを開講しています。
また、実際のTV局やラジオ局のプロをパートナーとして迎え入れ、
企画・制作から放送まですべて学生自身の手で行うワークショップを開催しています。
2015年には「SCB放送局 新市街スタジオ」も開局し"地域活性化のプラットフォーム"として活動も一層広がりを見せています。

VOICE of STUDENT STAFF

放送スキルから仕事に対する心構えまで
大学にいながらプロ級の仕事ができる！

牛島さん 情報学科 2年生 熊本県・第一高校出身

昔からテレビ関係の仕事を目指していたね。崇城大学へ入学する決め手になったのが、放送スタジオSCBの存在でした。現在は、熊本のバスケットボールチーム「ヴォルターズ」と協定を結んでいる学生制作番組「ヴォルターズch」で、チームとバスケットボールを盛り上げる番組を作って、ネット配信しています。カメラマンと編集を担当し、ホームゲームの取材、試合の撮影撮影、ファンの方のインタビュー、さらには地域のバスケットボールイベントの取材などに駆け回る日々です。プロの方と一緒に、プロに近い仕事ができるのは、放送やメディアに興味がある人にとって恵まれた環境。さらに、広報や仕事に対する心得からスケジュール管理まで、社会で必要なスキルも、実践的に身につく場だと思います。私の将来の夢はテレビ局のディレクターになって、番組の企画や編集を行うこと。SCBでの活動を通して、視聴者を意識した番組作りのスキルを磨き、夢へと生かしていきたいです。

SCB放送局新市街スタジオを拠点にメディア企業が集結！

2015年4月、熊本市中央区の新市街商店街に新設オープンした「崇城大学SCB放送局新市街スタジオ」は1Fに放送スタジオ、2Fにフリースペースを設けた多目的スポット。この新市街スタジオを拠点に、熊本朝日放送KAB、くまもと県民テレビKKT、J.COM、熊本日日新聞、地元フリーペーパー「すばいす」、雑誌「ナッセ」などメディア企業9社が集結し、学生と連携した番組制作や雑誌づくりを行っています。また、熊本市、合志市、NTT西日本、NEC関連企業、熊本信用金庫、医療機関、プロバスケットボールチーム「熊本ヴォルターズ」、市民団体の方々が新市街スタジオを拠点に地域活性化の活動を展開中です。その結果、SCBの学生メンバーが日テレ制作会社を始めメディア企業への合格を果たしました。

SCBで得た人との繋がりを糧に、東京オリンピックでカメラマンを目指します！

キーワードはプロとの連携 共同制作企画が続々と進行中

プロと連携した共同制作企画

- 熊日日日新聞との月1回の紙面連載中
- FM桜生との月2回の番組放送中
- J.COMとの週1回の番組放送(4月スタート)
- くまもと県民テレビとの夢まちランドの番組放送
- 雑誌「ナッセ」の紙面連載
- ICT、農業、サブカルなどをテーマにした番組制作 など

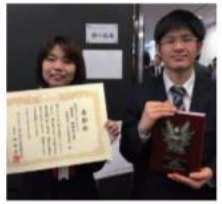
進行中のSCBを用いたアクティビティ

- 熊本市MICE活用検討委員会(役割)の運営
- 熊本市図書館活性化委員会の運営
- NASAハッカソンの運営
- TED×Kumamotoshiの開催
- 電子情報通信学会九州支部100周年記念イベントの運営
- 電子情報通信学会SOLIOプランチの運営
- 防災ラジオドラマの制作(防災研究所からの受託事業)
- 大西熊本市長と星合教授の対談記事を制作
- 荒木合志市長と星合教授の対談記事を制作 などその他多数

SCB放送局 新市街スタジオ：放送中でも通りから見学できるオープンなスタジオです。

学生作成コンテンツは多数のコンテスト入賞

テレビでおなじみの4局のアナウンサーがおすすめの本を持ち寄り、審評合戦で火花を散らすという「テレビ局対抗ビブリオバトル」でSCB放送局が優勝。



国連防災世界会議の防災コンテストにて、学生が制作したラジオドラマが見事入賞しました。

星合隆成（工学博士・P2P提唱者）

(一社)SCBラボ所長・理事
ＳＣＢイノベーションアカデミー校長
早稲田大学招聘研究員

崇城大学情報学部教授
崇城大学ＩｏＴ・ＡＩセンター長
(一社)ジョブラボぐんま監事
コンセプトラボ株式会社取締役会長

元NTT未来ねっと研究所主幹研究員・参与（経営職）
元ベルコミュニケーション研究所招聘研究員（米国留学）
元群馬大学客員教授